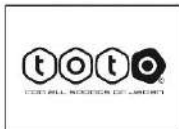


スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

令和 6 年度

テニス環境等実態調査 報告書

令和 7 年（2025 年）3 月

公益財団法人 日本テニス協会

スポーツくじ



すべてのスポーツにエールを

スポーツくじの収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

目 次

1. ご挨拶	2
2. テニス人口	3
3. 小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査	5
4. 社会人のテニス愛好者またはテニス観戦者を対象とした意識調査	15
5. 日本テニス協会 登録選手・公認審判員・公認指導者 登録者数	39
5-1 登録選手	39
5-1-1 プロ登録選手	39
5-1-2 一般登録選手	39
5-1-3 ベテラン登録選手	40
5-1-4 大学生登録選手	40
5-1-5 ジュニア登録選手	41
5-1-6 高校生登録選手	41
5-1-7 中学生登録選手	42
5-2 公認審判員	42
5-3 公認指導員	43
5-3-1 コーチ 1 ～ 4、テニス教師、テニス上級教師	43
5-3-2 S 級コーチ	45
別紙 都道府県における TENNIS PLAY&STAY の取組状況	

1. ご挨拶

平成 24 年度以降、日本テニス協会はテニス基本データの収集とテニス環境の改善に資する調査を実施し、その結果を「テニス環境等実態調査報告書」として公表しており、令和 6 年度は以下の調査を行いました。

なお、本調査を実施するにあたり、公益財団法人笹川スポーツ財団様提供のデータからテニス人口を定義しました。また、テニス人口推計のための統計調査として、2000 年から 2023 年の調査結果を用いて、10 代および 20 歳以上のテニス人口の推移を経年比較し掲載しています。

まず、普及推進事業としてテニス型授業「テニピン」の小学校への導入拡大を目指す中、全国の小学校への FAX 送信、本協会の SNS や普及ホームページからの情報掲載、教員情報メディア「みんなの教育技術」とのタイアップにより、テニピンの情報発信を行うほか、テニピンハンドラケットセットの無償提供も行なってきましたが、これによるテニピンの認知度と授業導入校の増加実態を昨年に引き続き令和 6 年度も調査いたしました。

また、テニス愛好者やテニス観戦者の方々を対象とし、テニスファンをいかに増やし、我が国テニス界の裾野をいかに広げていくかのヒントを得るための意識調査も行いました。

その他、継続して調査を行っている事項も掲載しています。

本報告書は過去の分も含め、本会ホームページでご覧いただけますので、積極的にはご利用いただけたら幸いです。

最後になりましたが、本調査の実施に当たり、スポーツ環境調査助成事業としてご支援いただいた独立行政法人日本スポーツ振興センター様、テニス人口推計のための統計調査においてデータをご提供いただいた公益財団法人笹川スポーツ財団様、そしてアンケートにご回答いただいた全国の皆さまに篤く御礼を申し上げます。

令和 7 年 4 月

公益財団法人日本テニス協会
会長 深澤 祐二

2. テニス人口

(1) テニス人口の定義およびテニス人口推計のための統計調査

スポーツの普及を指す指標に「競技人口」があるが、この言葉は、団体に登録して競技大会に出場する者に限定されることもあれば、そのスポーツを実施している者を表す場合もあり、使われ方はさまざまである。本報告書ではテニス人口を以下のように定義した

テニス人口：過去1年間に1回以上、硬式テニスを行った日本人の推計人口

日本のテニス人口に関する主な統計資料に公益財団法人笹川スポーツ財団（SSF）の「スポーツライフに関する調査」がある。今回は「スポーツライフに関する調査」の2000年から2023年の調査結果を用いて、10代および20歳以上のテニス人口の推移を経年比較した。

(2) テニス人口

日本のテニス人口：312万人

図表 2-1 に 20 歳以上の、図表 2-2 に 10 代のテニス人口の推移を実施頻度別に示した。年 1 回以上テニスを実施した人の割合（テニス実施率）は、2022 年の成人調査が 2.6%（推計 268 万人）、2023 年の 10 代調査が 4.0%（推計 44 万人）であり、10 代と 20 歳以上を合わせた日本のテニス人口は 312 万人となる。

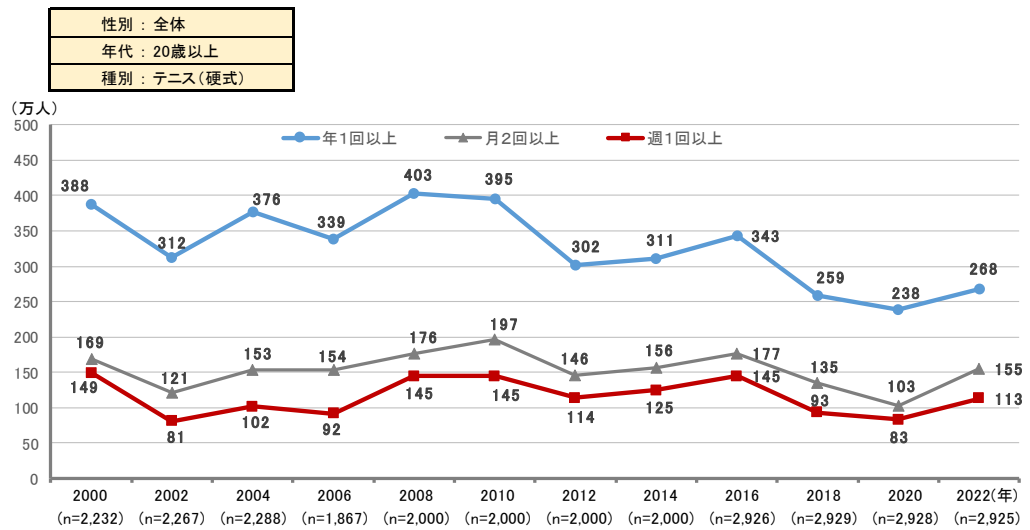
2000 年からのテニス人口（20 歳以上と 10 代の合計）の推移をみると、2000 年から 2011 年の間は 400 万人後半から 500 万人程度で推移していたが、2012 年から 2017 年は 300 万人後半から 400 万人前半に減少した。続く 2018 年（20 歳以上）と 2019 年（10 代）の合計は 333 万人、2020 年（20 歳以上）・2021 年（10 代）の合計は新型コロナウイルス発生による緊急事態宣言の影響もあり 302 万人に落ち込んだが、2022 年には 20 歳以上が 268 万人に回復したことでやや持ち直し、2022 年（20 歳以上）と 2023 年（10 代）の合計は 312 万人となった。この 20 年間での日本のテニス人口の減少幅は、人数にして 200 万人程度、割合にして約 4 割の減少となる。

特に 10 代における減少傾向が顕著で 2015 年から減少傾向が続く。ピークの 2005 年（125 万人）と比較すると 2023 年（44 万人）は 2005 年の約 3 分の 1 の規模となった。

過去 1 年間に 1 回以上、硬式テニスを行った日本人の推計人口に加えて、定期的なテニス実施者を把握するため、月 2 回以上と週 1 回以上の実施人口と実施率を図表 2-1 と図表 2-2 に示した。20 歳以上の週 1 回以上の推計人口は 113 万人で、年 1 回以上の 20 歳以上のテニス人口の約 4 割は週に 1 回以上の「定期的」な愛好者であることがわかる。図に示すとおり、20 歳以上の月 2 回以上や週 1 回以上の「定期的」な実施率は横ばいで推移している。

10 代についてみると、週 1 回以上の推計人口は 24 万人で、年 1 回以上の 10 代のテニス人口の過半数（55%）が週に 1 回以上の「定期的」な愛好者である。10 代の 2015 年以降の実施頻度別の減少幅をみると特に年 1 回以上月 2 回未満の低頻度層の減少が大きく、2015 年には 54 万人いた低頻度層（年 1 回以上と月 2 回以上の差分）が 2023 年には 12 万人にまで減少した。成人のテニス人口を増やすためにも、10 代以下のテニスの経験を増やすための施策が必要と言える。

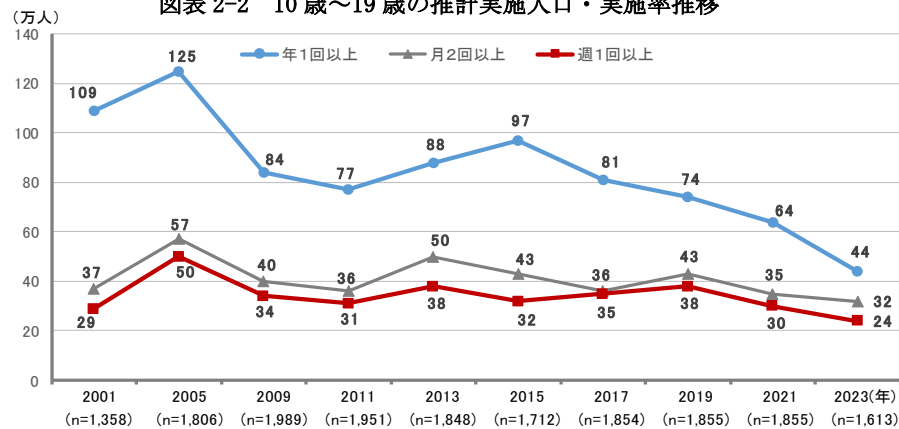
図表 2-1 20 歳以上の推計実施人口・実施率推移



推計実施人口(万人)		2000 (n=2,232)	2002 (n=2,267)	2004 (n=2,288)	2006 (n=1,867)	2008 (n=2,000)	2010 (n=2,000)	2012 (n=2,000)	2014 (n=2,000)	2016 (n=2,926)	2018 (n=2,929)	2020 (n=2,928)	2022(年) (n=2,925)
実施頻度 (%)	年1回以上	388	312	376	339	403	395	302	311	343	259	238	268
	月2回以上	169	121	153	154	176	197	146	156	177	135	103	155
	週1回以上	149	81	102	92	145	145	114	125	145	93	83	113
住民基本台帳の成人人口(人)		99,426,665	100,649,429	101,730,947	102,636,961	103,387,474	103,824,522	103,973,831	103,811,681	103,888,078	103,708,284	103,424,756	103,133,291

実施率(%)		2000 (n=2,232)	2002 (n=2,267)	2004 (n=2,288)	2006 (n=1,867)	2008 (n=2,000)	2010 (n=2,000)	2012 (n=2,000)	2014 (n=2,000)	2016 (n=2,926)	2018 (n=2,929)	2020 (n=2,928)	2022(年) (n=2,925)
実施頻度 (%)	年1回以上	3.9	3.1	3.7	3.3	3.9	3.8	2.9	3.0	3.3	2.5	2.3	2.6
	月2回以上	1.7	1.2	1.5	1.5	1.7	1.9	1.4	1.5	1.7	1.3	1.0	1.5
	週1回以上	1.5	0.8	1.0	0.9	1.4	1.4	1.1	1.2	1.4	0.9	0.8	1.1
住民基本台帳の成人人口(人)		99,426,665	100,649,429	101,730,947	102,636,961	103,387,474	103,824,522	103,973,831	103,811,681	103,888,078	103,708,284	103,424,756	103,133,291

図表 2-2 10 歳～19 歳の推計実施人口・実施率推移



推計実施人口(万人)		2001 (n=1,358)	2005 (n=1,806)	2009 (n=1,989)	2011 (n=1,951)	2013 (n=1,848)	2015 (n=1,712)	2017 (n=1,854)	2019 (n=1,855)	2021 (n=1,855)	2023(年) (n=1,613)
実施頻度 (%)	年1回以上	109	125	84	77	88	97	81	74	64	44
	月2回以上	37	57	40	36	50	43	36	43	35	32
	週1回以上	29	50	34	31	38	32	35	38	30	24
住民基本台帳の成人人口(人)		13,741,741	12,856,314	12,143,089	12,004,534	11,920,393	11,836,576	11,590,110	11,373,248	11,161,492	10,930,214

実施率(%)		2001 (n=1,358)	2005 (n=1,806)	2009 (n=1,989)	2011 (n=1,951)	2013 (n=1,848)	2015 (n=1,712)	2017 (n=1,854)	2019 (n=1,855)	2021 (n=1,855)	2023(年) (n=1,613)
実施頻度 (%)	年1回以上	7.9	9.7	6.9	6.4	7.4	8.2	7.0	6.5	5.7	4.0
	月2回以上	2.7	4.4	3.3	3.0	4.2	3.6	3.1	3.8	3.1	2.0
	週1回以上	2.1	3.9	2.8	2.6	3.2	2.7	3.0	3.3	2.7	2.2
住民基本台帳の成人人口(人)		13,741,741	12,856,314	12,143,089	12,004,534	11,920,393	11,836,576	11,590,110	11,373,248	11,161,492	10,930,214

注1) 図の人口は住民基本台帳の青少年(10代)人口に、実施率(%)を乗じて算出
 注2) 「年1回以上」は「月2回以上」、「週1回以上」も含む。また、「月2回以上」は「週1回以上」も含む
 注3) 2017～2023年は「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017～2023より10歳・11歳のデータを追加し、
 「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017～2023の19歳までを分析対象とした

笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2001～2015、
 「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017～2023、「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017～2023より作成

3. 小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査

(1) 調査実施概要

調査目的	テニピンが小学校の体育授業にどれだけ導入されているか調査を実施し、未導入の理由や地域を探り、今後の導入促進に向けた施策案やターゲットを探索。 ※テニピンとは： https://fukyu.jta-tennis.or.jp/teniping/about.html
調査対象	全国の小学校の体育課主任または体育の授業内容を把握している教諭（校長・副校長・教頭も回答可とする）
対象校の抽出方法	文部科学省の学校コード（令和6年5月1日時点（暫定版））から分校・廃校を除外した18,693校の小学校から1,800校を無作為抽出。
調査方法	郵送依頼・WEB調査 （各対象校に校長宛と体育課主任宛での2種類の調査依頼状を郵送して、WEBアンケート画面からの回答を依頼。）
回答状況	設定数1,800s、有効回答415s 有効回収率23%
調査時期	2025年2月～3月
調査主体	公益財団法人 日本テニス協会
調査実施	株式会社 日本リサーチセンター

都道府県別 母集団数・設定数・回収数・回収率

	母集団	設定数	回収数	回収率(%)
全 国	18,693	1,800	415	23.1
北海道	929	104	12	11.5
青森県	249	23	6	26.1
岩手県	267	21	5	23.8
宮城県	353	26	5	19.2
秋田県	172	14	3	21.4
山形県	220	15	3	20.0
福島県	375	41	10	24.4
茨城県	439	35	12	34.3
栃木県	331	36	6	16.7
群馬県	299	29	9	31.0
埼玉県	800	78	20	25.6
千葉県	756	70	20	28.6
東京都	1,320	121	19	15.7
神奈川県	876	83	14	16.9
新潟県	432	43	14	32.6
富山県	172	22	9	40.9
石川県	198	26	3	11.5
福井県	190	24	7	29.2
山梨県	171	8	3	37.5
長野県	355	28	8	28.6
岐阜県	339	28	10	35.7
静岡県	479	41	9	22.0
愛知県	962	91	32	35.2
三重県	355	33	7	21.2

	母集団	設定数	回収数	回収率(%)
滋賀県	219	20	5	25.0
京都府	358	32	5	15.6
大阪府	976	92	25	27.2
兵庫県	729	80	21	26.3
奈良県	186	20	2	10.0
和歌山県	233	31	6	19.4
鳥取県	112	17	4	23.5
島根県	192	17	6	35.3
岡山県	367	45	12	26.7
広島県	456	46	3	6.5
山口県	289	28	8	28.6
徳島県	180	19	5	26.3
香川県	156	16	9	56.3
愛媛県	276	30	9	30.0
高知県	217	22	2	9.1
福岡県	711	66	11	16.7
佐賀県	152	16	6	37.5
長崎県	306	26	5	19.2
熊本県	324	25	7	28.0
大分県	254	25	4	16.0
宮崎県	228	22	5	22.7
鹿児島県	472	40	4	10.0
沖縄県	261	25	5	20.0

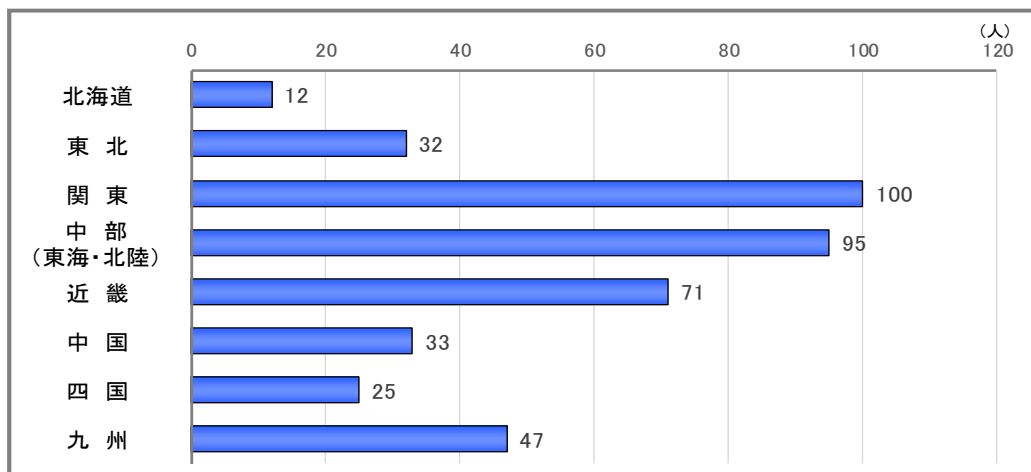
(2) 調査結果の概要

小学校におけるテニピンの体育授業導入状況

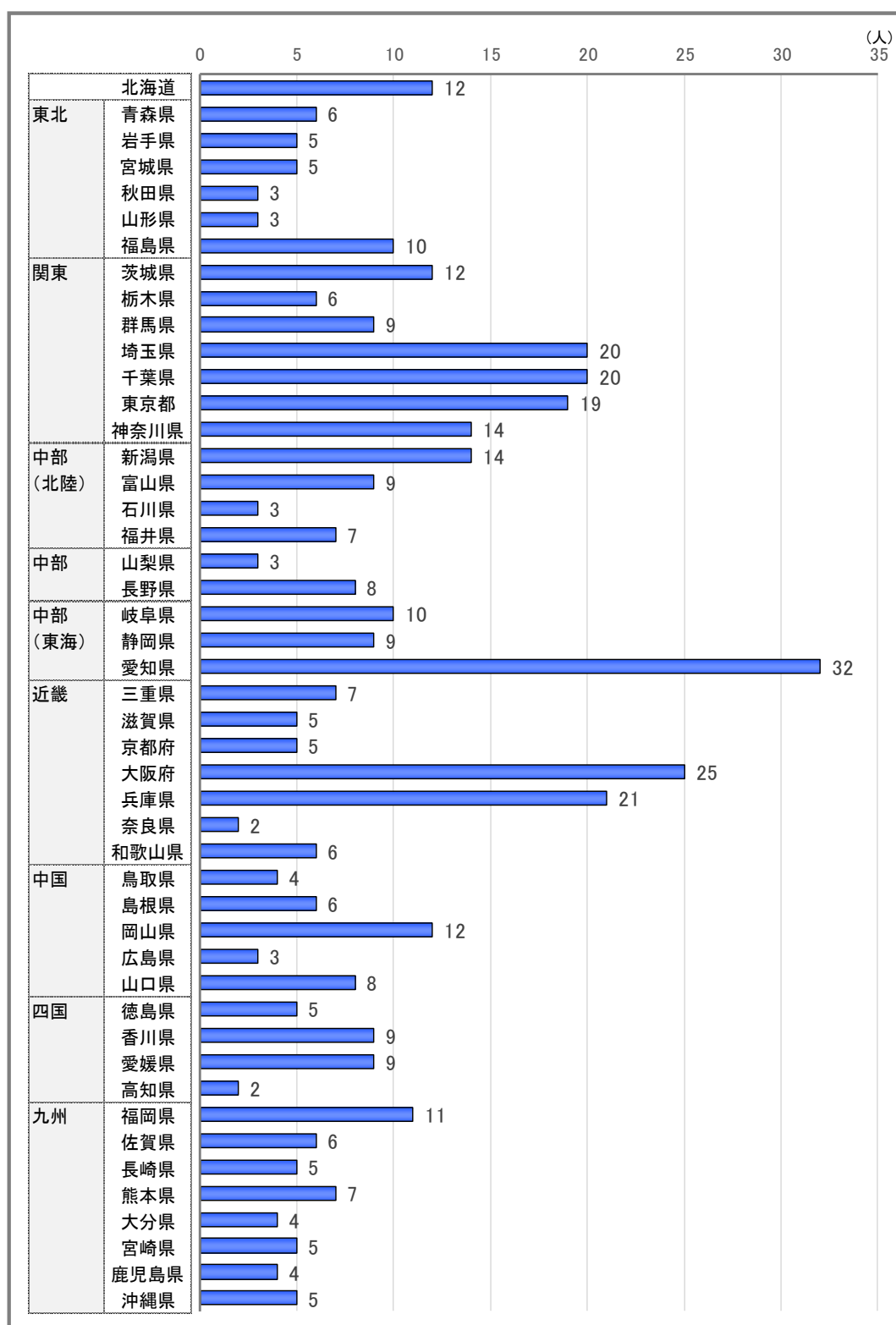
日本テニス協会では、2024 年度、全国の小学校から無作為に抽出した 1,800 校を対象に、小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査を実施した。郵送依頼・WEB 調査による調査を実施し、415 校の小学校教諭らから回答を得た。

下記では、回答のあった全国 415 校の回答者の属性（地域・都道府県・役職・性別）をまとめている。

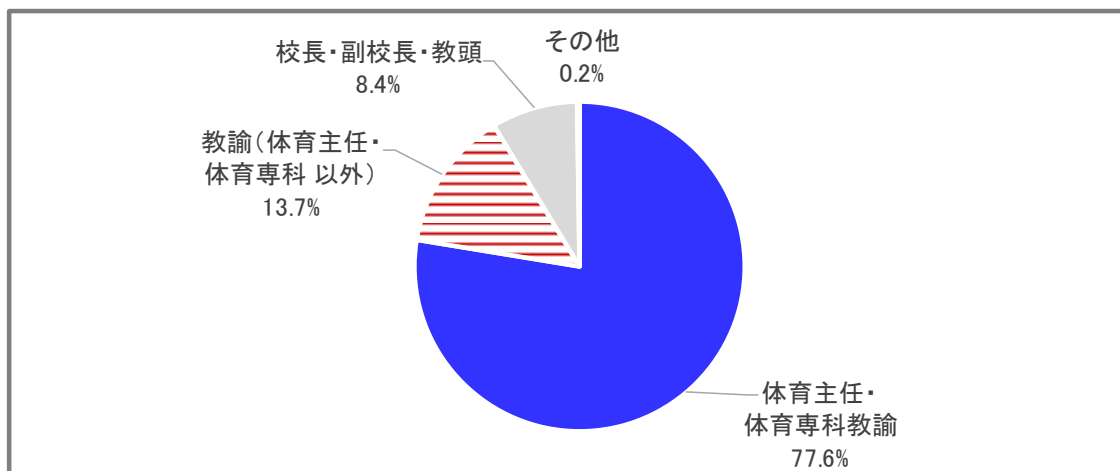
図表 3-1：回答者の属性（地域別）（n=415）



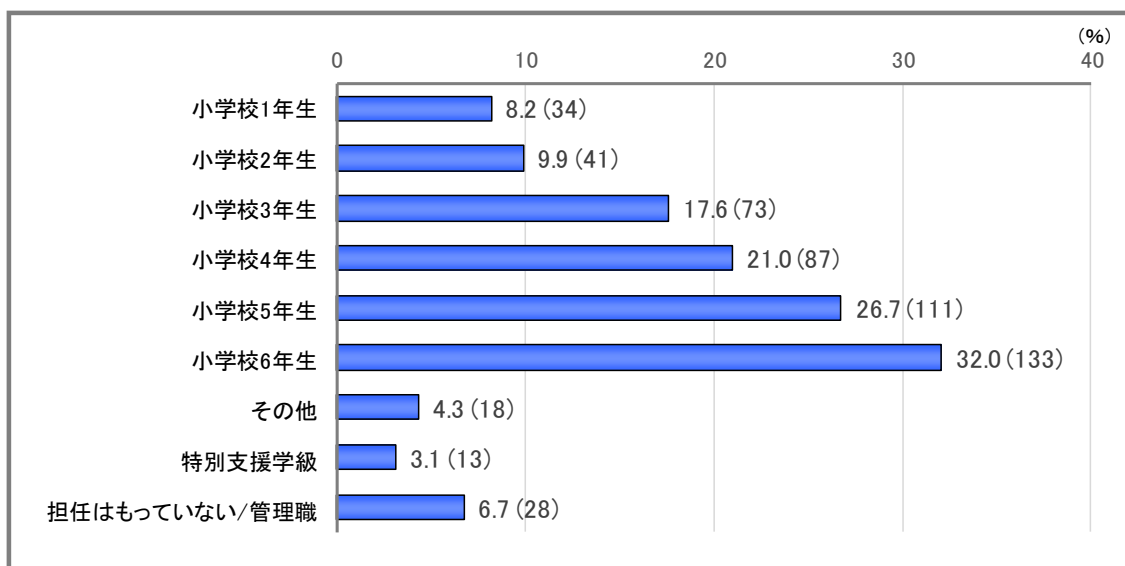
図表 3-2 : 回答者の属性（都道府県）（n=415）



図表 3-3 : 回答者の属性（役職）（n=415）

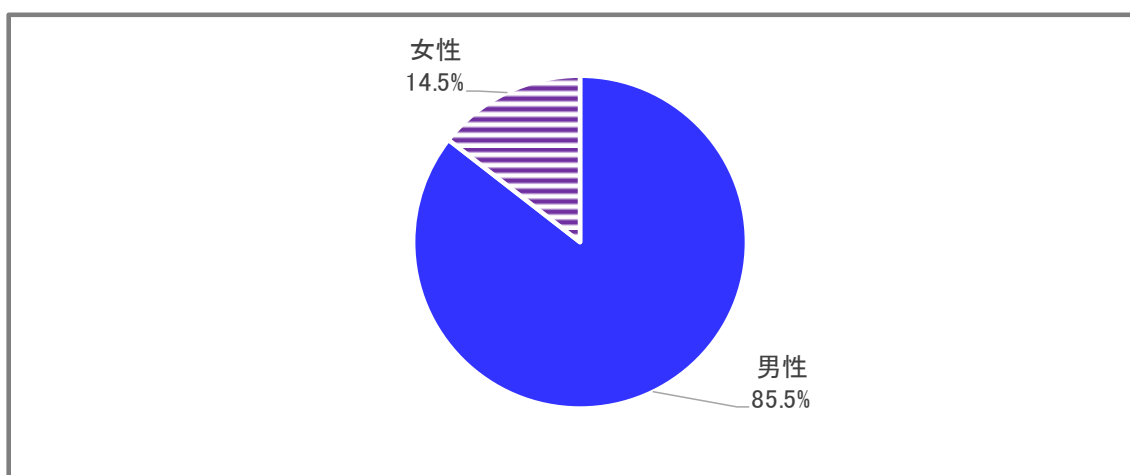


図表 3-4 : 回答者の属性（担当学年）（n=415）



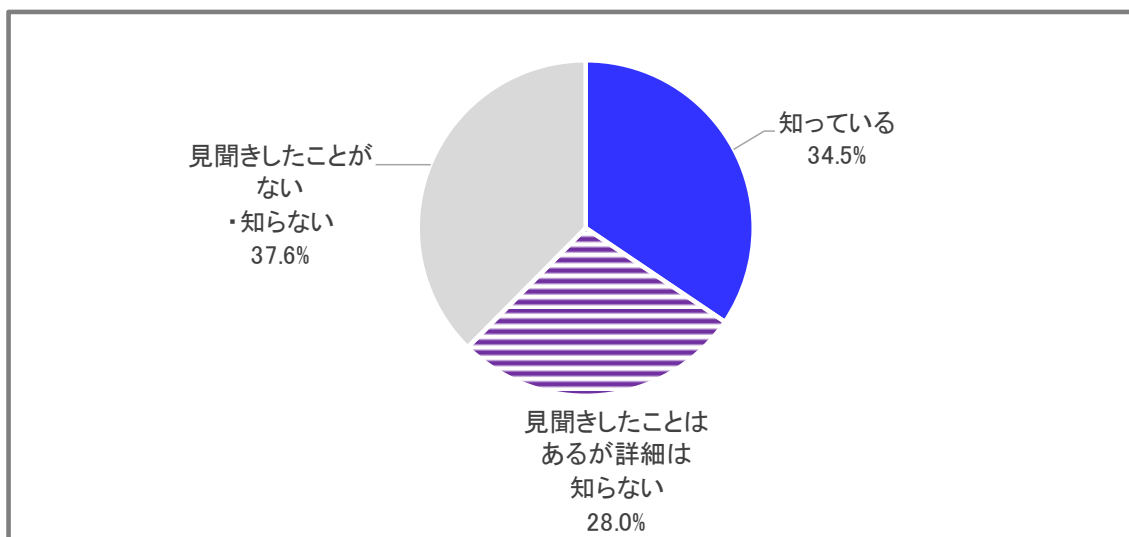
()内人数

図表 3-5 : 回答者の属性（性別）（n=415）



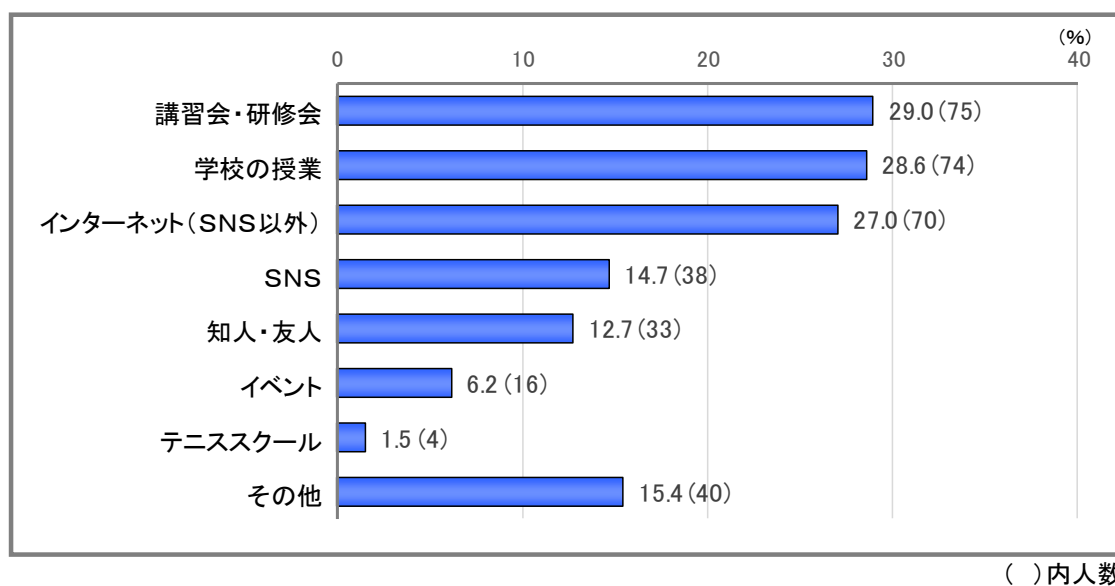
「テニピン」を知っているかたずねたところ、「知っている」が34.5%、「見聞きしたことはあるが詳細は知らない」が28.0%、「見聞きしたことがない・知らない」が37.6%であった。

図表 3-6 : 「テニピン」を知っているか (n=415)



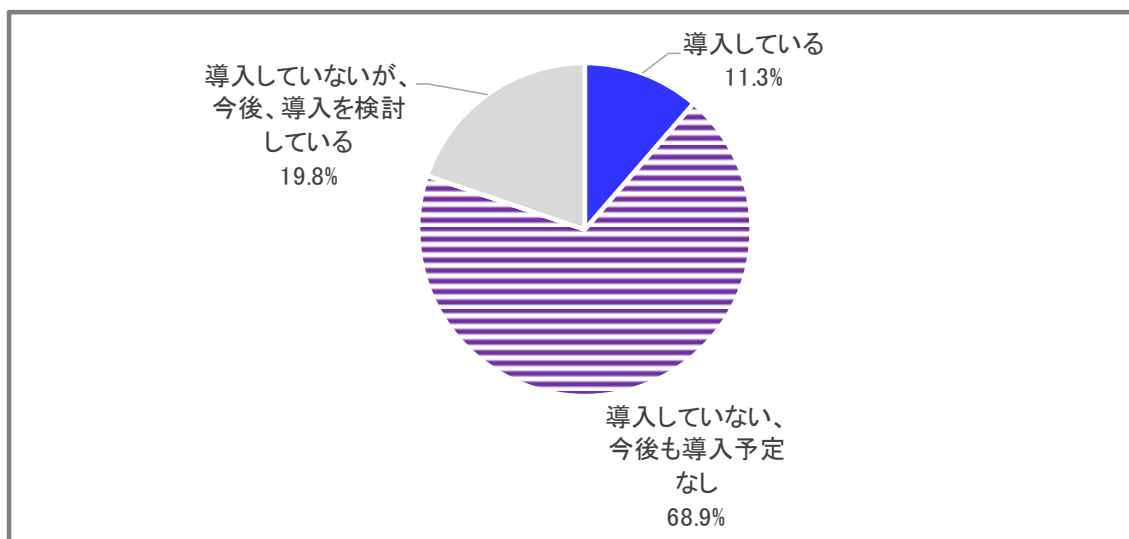
テニピンを知ったきっかけを複数回答可でたずねたところ、全体では「講習会・研修会」(29.0%)と「学校の授業」(28.6%)、「インターネット (SNS 以外)」(27.0%) が上位にあがった。「その他」は、具体的には学校へ届いた案内や体育の関係書籍からなどがあがった。

図表 3-7 : テニピンを知ったきっかけ (n=259) ※複数回答可



学校の授業にテニピンを導入しているかたずねたところ、「導入している」と回答したのは全体の11.3%であった。「導入していないが、今後、導入を検討している」は19.8%、「導入していない・今後も導入予定なし」が68.9%であった。

図表 3-8：学校の授業に「テニピン」を導入しているか（n=415）



図表 3-9：地域別テニピン導入数・導入率

	全体回答者数(人)	テニピン導入数(人)	テニピン導入率(%)
合 計	415	47	11.3
北 海 道	12	1	8.3
東 北	32	3	9.4
関 東	100	14	14.0
中 部	95	15	15.8
近 畿	71	3	4.2
中 国	33	2	6.1
四 国	25	4	16.0
九州・沖縄	47	5	10.6

図表 3-10：都道府県別テニピン導入数・導入率

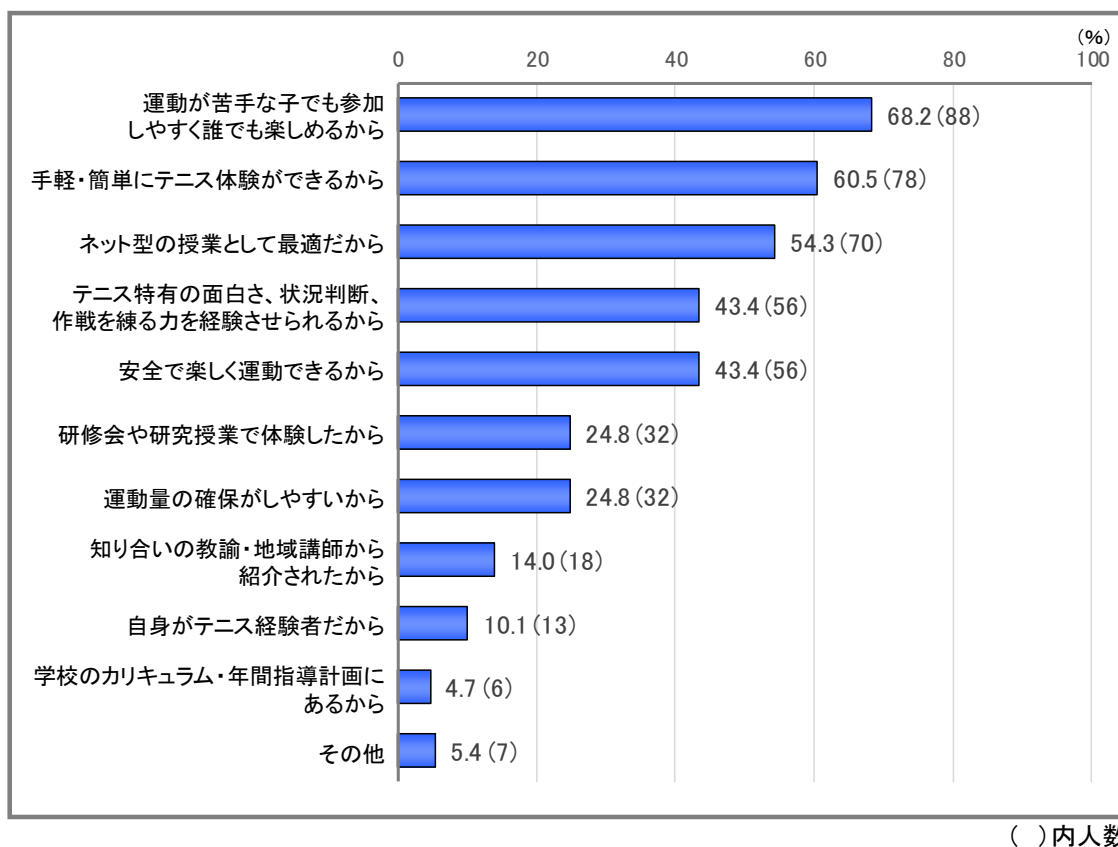
	全体回答者数(人)	テニピン導入数(人)	テニピン導入率(%)
合 計	415	47	11.3
北海道	12	1	8.3
青森県	6	1	16.7
岩手県	5	0	0.0
宮城県	5	0	0.0
秋田県	3	1	33.3
山形県	3	0	0.0
福島県	10	1	10.0
茨城県	12	1	8.3
栃木県	6	0	0.0
群馬県	9	4	44.4
埼玉県	20	2	10.0
千葉県	20	1	5.0
東京都	19	5	26.3
神奈川県	14	1	7.1
新潟県	14	0	0.0
富山県	9	3	33.3
石川県	3	0	0.0
福井県	7	0	0.0
山梨県	3	0	0.0
長野県	8	1	12.5
岐阜県	10	3	30.0
静岡県	9	0	0.0
愛知県	32	8	25.0
三重県	7	1	14.3
滋賀県	5	0	0.0
京都府	5	0	0.0
大阪府	25	1	4.0
兵庫県	21	1	4.8
奈良県	2	0	0.0
和歌山県	6	0	0.0
鳥取県	4	0	0.0
島根県	6	2	33.3
岡山県	12	0	0.0
広島県	3	0	0.0
山口県	8	0	0.0
徳島県	5	0	0.0
香川県	9	2	22.2
愛媛県	9	2	22.2
高知県	2	0	0.0
福岡県	11	0	0.0
佐賀県	6	2	33.3
長崎県	5	0	0.0
熊本県	7	1	14.3
大分県	4	0	0.0
宮崎県	5	2	40.0
鹿児島県	4	0	0.0
沖縄県	5	0	0.0

(注)・JTA 無償提供キャンペーン等での取り組みの数値とは異なります。

- ・これらは全国の小学校 18,693 校から約 10 校に 1 校を無作為抽出し調査対象としたサンプリング調査のため、実際導入されている学校が反映されていない可能性があります。
- ・都道府県別の数値は各県の回答者数が少ないため、参考値としてご覧ください。

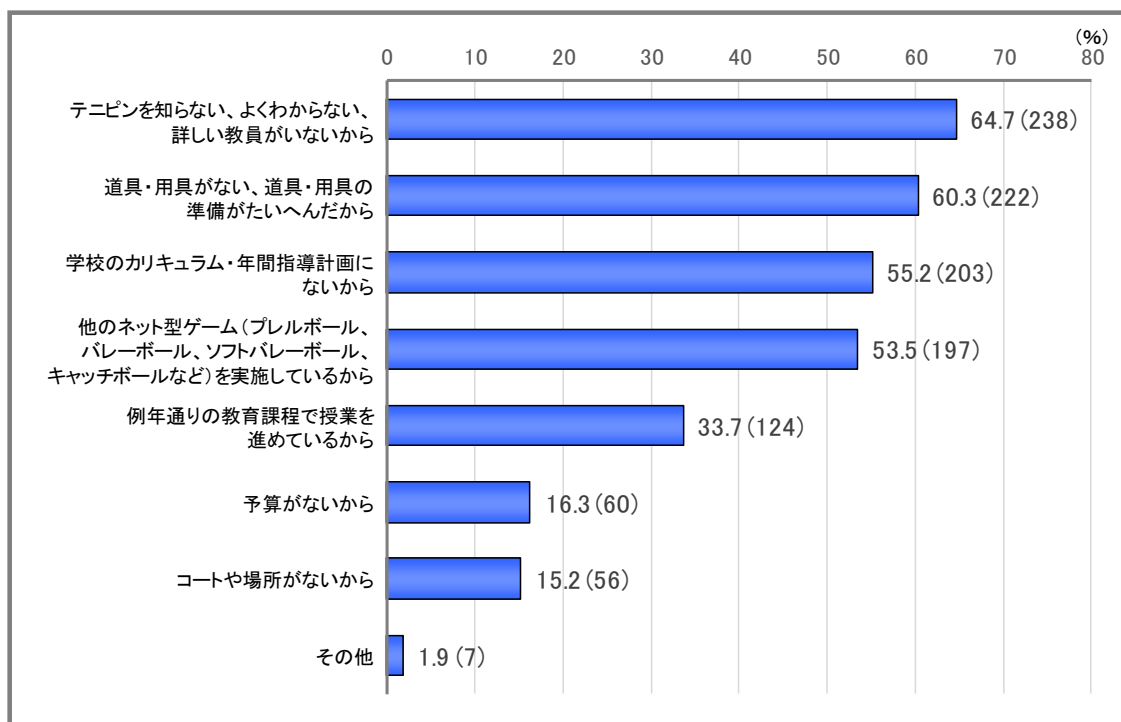
学校の授業にテニピンを導入している理由・導入を検討している理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「運動が苦手な子でも参加しやすく誰でも楽しめるから」が約7割(68.2%)で最も多く、「手軽・簡単にテニス体験ができるから」が6割(60.5%)で2位にあがった。以下、「ネット型の授業として最適だから」(54.3%)、「テニス特有の面白さ、状況判断、作戦を練る力を経験させられるから」「安全で楽しく運動できるから」(ともに43.4%)などが上位にあがった。

図表 3-11：テニピンを導入している理由・導入を検討している理由（n=129） ※複数回答可



学校の授業にテニピンを導入していない理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「テニピンを知らない、よくわからない、詳しい教員がいないから」(64.7%)、「道具・用具がない、道具・用具の準備がたいへんだから」(60.3%)、「学校のカリキュラム・年間指導計画にないから」(55.2%)、「他のネット型ゲームを実施しているから」(53.5%)などが上位にあがった。

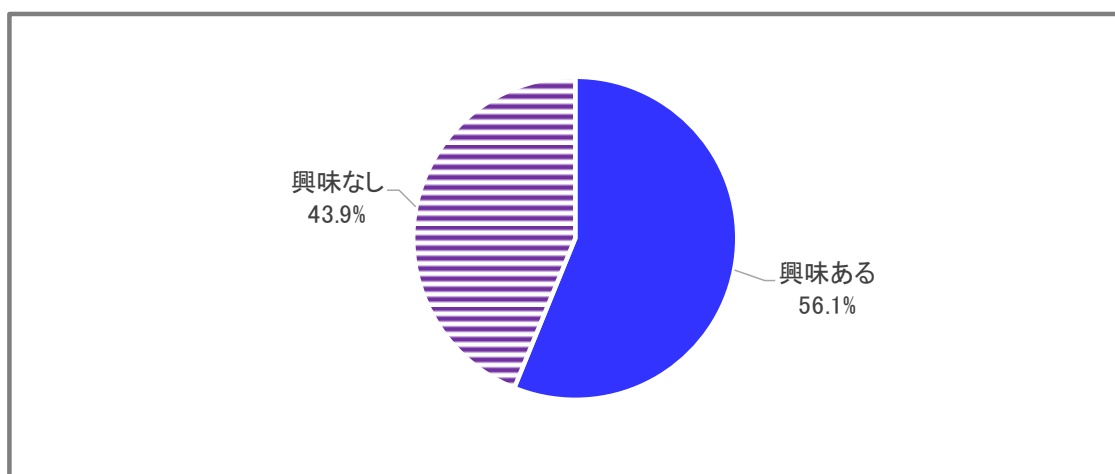
図表 3-12：テニピンを導入していない理由 (n=368) ※複数回答可



()内人数

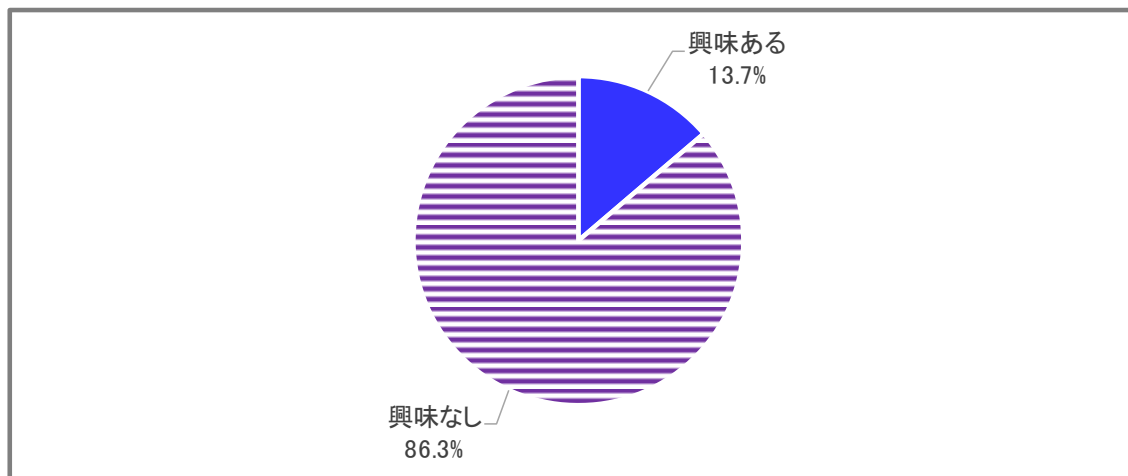
教員研修会、出張授業の無償派遣については、過半数の 56.1%が「興味ある」と回答した。

図表 3-13：講師（教員研修会、出張授業）の無償派遣への興味 (n=415)



テニピンリーダーの認定資格への興味をたずねたところ、「興味ある」と回答したのは 13.7%、「興味なし」が 86.3%であった。

図表 3-14 : テニピンリーダー認定資格への興味 (n=415)



4. 社会人のテニス愛好者・観戦者を対象とした意識調査

(1) 調査実施概要

調査目的	テニス愛好者およびテニス観戦者の裾野拡大に向けた意識調査
調査対象	テニスをプレイする愛好者 または テニスを観戦するテニス観戦者
調査方法	WEB 調査（WEB 調査モニターから対象者条件にあう者をスクリーニング）
回答者数	300s
調査時期	2025 年 2 月～3 月
調査実施	（株）日本リサーチセンター

本調査結果を読む際の注意点

○全体で見た場合に加えて、性別・年齢等にブレイクダウンした結果も掲載しているが、年齢別の一部などで回答者数（n 数）が少ない層がある。各サンプルの回答のばらつきの影響を受けやすいため、目安として 30 サンプル以下は参考値として見ていただきたい。

○調査対象者の中にはテニス愛好者でもありテニス観戦者でもある人（プレイもするし、試合観戦もする人）がいる。本調査は、テニス愛好者向けの設問とテニス観戦者向けの設問および愛好者と観戦者の両方への設問で構成されているが、テニス愛好者でもありテニス観戦者でもある人はすべての設問に回答している。テニス愛好者とテニス観戦者を比較する場合は、両方に重複している人がいる点に注意。

(2) 調査結果の概要

◆社会人のテニス愛好者またはテニス観戦者を対象とした意識調査

日本テニス協会では、18歳以上の社会人を対象に意識調査を実施し、300人から回答を得た。

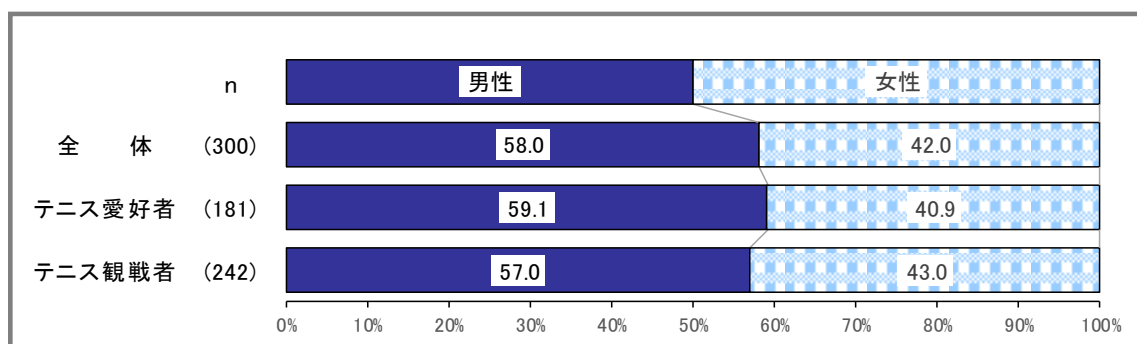
過去1年間にテニスをプレイした経験のある人を「テニス愛好者」、過去1年間にテニスを観戦した経験のある人を「テニス観戦者」と定義した。テニス観戦は会場での観戦だけではなく、テレビ放送やインターネット配信（試合ダイジェスト版やハイライトなども含む）を観ることも含めた。

全体のうち、「テニス愛好者」は181人、「テニス観戦者」は242人であった。テニスをプレイするし観戦もするという場合はテニス愛好者とテニス観戦者の両方に該当するため、テニス愛好者とテニス観戦者の合計は回答者数300人と一致しない。内訳は、テニス愛好者とテニス観戦者の両方に該当する人は123人、プレイのみで観戦はしない人は58人、テニス観戦のみでプレイはしない人は119人であった。

以下、テニス愛好者とテニス観戦者について分析を行った。

回答者の性別は、テニス愛好者は男性（59.1%）が約6割で女性（40.9%）が約4割であった。テニス観戦者もテニス愛好者とほぼ同じで男性57.0%、女性43.0%であった。

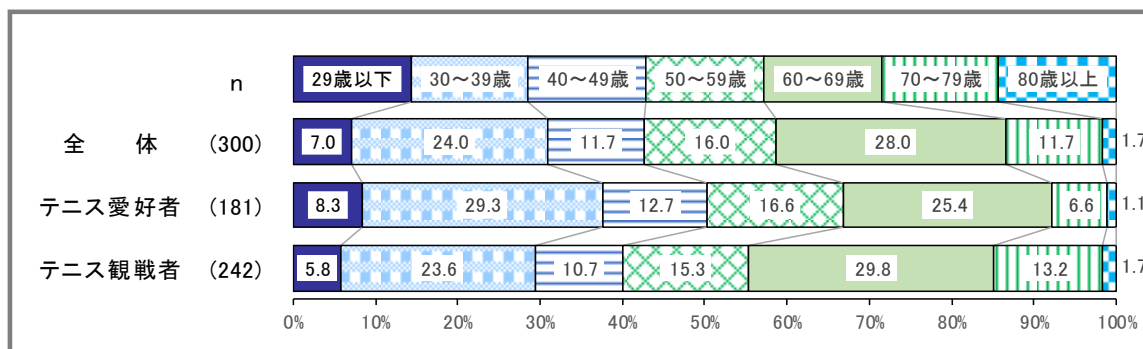
図表 4-1：回答者の属性（性別）



回答者の年齢は、テニス愛好者は、30～39 歳（29.3%）が約 3 割で最も多く、次いで 60～69 歳（25.4%）が全体の 4 分の 1 を占める。50 歳以上が合計 49.7%で約半数を占める。

テニス観戦者は 60～69 歳（29.8%）が約 3 割で最も多く、50 歳以上が合計 60.0%で 6 割を占める。

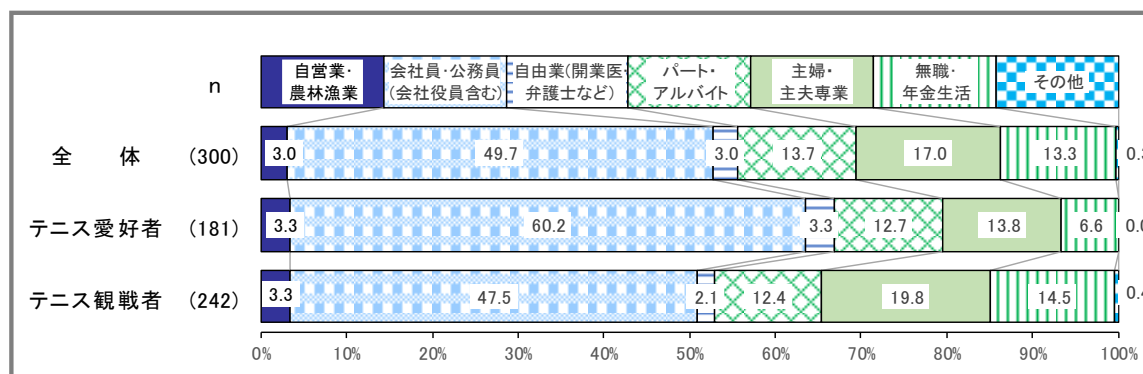
図表 4-2：回答者の属性（年齢）



回答者の職業は、テニス愛好者は、会社員・公務員（会社役員含む）（60.2%）が 6 割を占める。

テニス観戦者は会社員・公務員（47.5%）が約 5 割で最も多く、次いで、主婦・主夫専業が約 2 割（19.8%）であった。

図表 4-3：回答者の属性（職業）



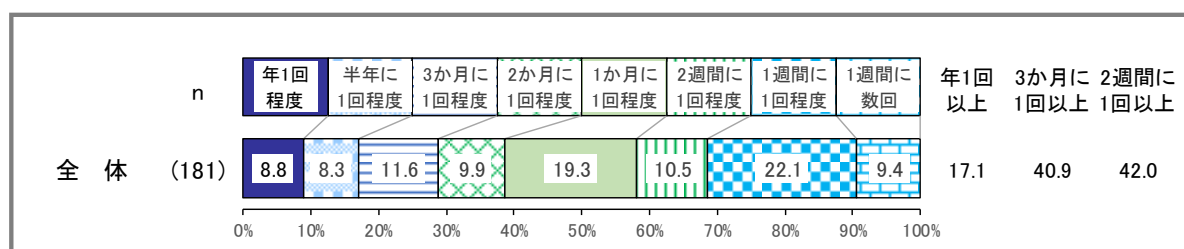
◆社会人のテニス愛好者の意識調査

テニス愛好者を対象に、プレイの頻度やプレイ歴等についてたずねた。

この1年間のテニスのプレイ頻度は、全体では『2週間に1回以上』（「2週間に1回程度」と「1週間に1回程度」と「1週間に数回」の合計）が42.0%、『3か月に1回以上』（「3ヶ月に1回程度」と「2ヶ月に1回程度」と「1ヶ月に1回程度」の合計）が40.9%を占めた。

『2週間に1回以上』の高頻度でテニスをプレイしている層についてみると、性別による差はないが、年齢別では高年齢層ほど割合が高い傾向がある。プレイ歴別にみると「～5年以内」と「～20年以内」は『3か月に1回以上』が5割前後で最も多いのに対して、「21年以上」では『2週間に1回以上』が約6割を占める。プレイ歴21年以上のベテランは他に比べて高頻度でテニスをプレイしていると言える。

図表 4-4：この1年間のテニスのプレイ頻度



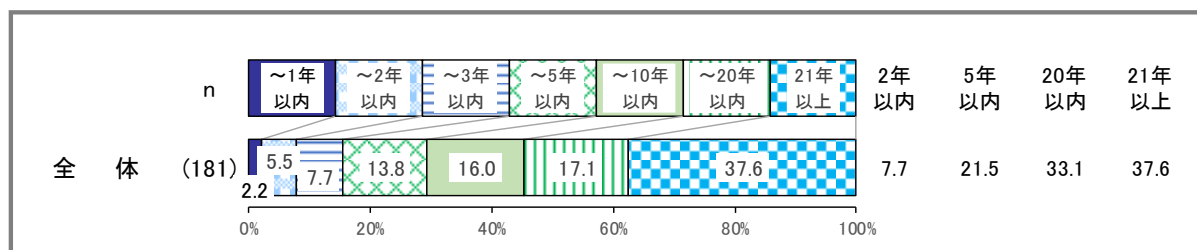
		n										(%)		
			年1回程度	半年に1回程度	3か月に1回程度	2か月に1回程度	1か月に1回程度	2週間に1回程度	1週間に1回程度	1週間に数回		年1回以上	3か月に1回以上	2週間に1回以上
全 体		(181)	8.8	8.3	11.6	9.9	19.3	10.5	22.1	9.4		17.1	40.9	42.0
性 別	男 性	(107)	6.5	6.5	11.2	12.1	21.5	15.0	18.7	8.4		13.1	44.9	42.1
	女 性	(74)	12.2	10.8	12.2	6.8	16.2	4.1	27.0	10.8		23.0	35.1	41.9
年 齢	29 歳 以 下	(15)	26.7	13.3	13.3	13.3	20.0	0.0	13.3	0.0		40.0	46.7	13.3
	30 ～ 39 歳	(53)	11.3	11.3	15.1	13.2	20.8	13.2	9.4	5.7		22.6	49.1	28.3
	40 ～ 49 歳	(23)	17.4	4.3	13.0	13.0	8.7	17.4	26.1	0.0		21.7	34.8	43.5
	50 ～ 59 歳	(30)	0.0	6.7	0.0	6.7	40.0	13.3	26.7	6.7		6.7	46.7	46.7
	60 ～ 69 歳	(46)	4.3	8.7	17.4	4.3	13.0	6.5	28.3	17.4		13.0	34.8	52.2
	70 歳 以 上	(14)	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1	7.1	42.9	28.6		0.0	21.4	78.6
プ レ イ 歴	～ 5 年 以 内	(53)	11.3	13.2	13.2	20.8	13.2	11.3	13.2	3.8		24.5	47.2	28.3
	～ 20 年 以 内	(60)	10.0	1.7	15.0	8.3	30.0	6.7	21.7	6.7		11.7	53.3	35.0
	21 年 以 上	(68)	5.9	10.3	7.4	2.9	14.7	13.2	29.4	16.2		16.2	25.0	58.8

テニスのプレイ歴は、全体では「21 年以上」が 37.6%と 4 割近くを占め、最も多い。

年齢別にみると、30～39 歳は『5 年以内』の割合が他に比べて高く、50 歳以上は「21 年以上」の割合が高い。

プレイ頻度別にみると 2 週間に 1 回以上の高頻度でテニスをプレイしているは「21 年以上」が過半数（52.6%）を占める。1 か月に 1 回程度～2 か月に 1 回程度の層は「5～10 年以内」が 3 割（30.2%）で他に比べて高い。

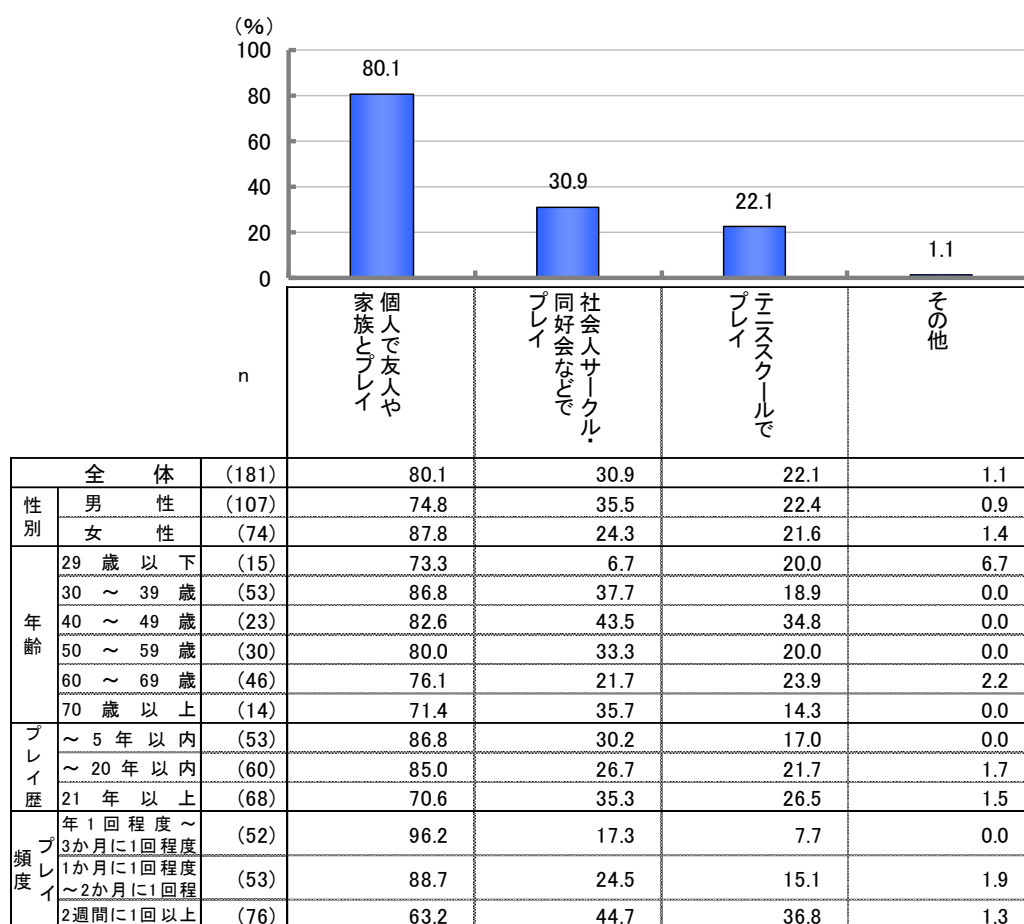
図表 4-5：テニスのプレイ歴



				(%)										
n				～1年 以内	～2年 以内	～3年 以内	～5年 以内	～10年 以内	～20年 以内	21年 以上	2年 以内	5年 以内	20年 以内	21年 以上
性別	全 体		(181)	2.2	5.5	7.7	13.8	16.0	17.1	37.6	7.7	21.5	33.1	37.6
	男 性		(107)	1.9	5.6	10.3	16.8	15.0	13.1	37.4	7.5	27.1	28.0	37.4
	女 性		(74)	2.7	5.4	4.1	9.5	17.6	23.0	37.8	8.1	13.5	40.5	37.8
年 齢	29 歳 以 下		(15)	6.7	26.7	20.0	6.7	26.7	13.3	0.0	33.3	26.7	40.0	0.0
	30 ～ 39 歳		(53)	3.8	7.5	15.1	34.0	17.0	11.3	11.3	11.3	49.1	28.3	11.3
	40 ～ 49 歳		(23)	0.0	4.3	8.7	4.3	26.1	26.1	30.4	4.3	13.0	52.2	30.4
	50 ～ 59 歳		(30)	0.0	3.3	3.3	6.7	20.0	20.0	46.7	3.3	10.0	40.0	46.7
	60 ～ 69 歳		(46)	2.2	0.0	0.0	4.3	8.7	17.4	67.4	2.2	4.3	26.1	67.4
	70 歳 以 上		(14)	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	21.4	71.4	0.0	7.1	21.4	71.4
頻 度 ブレイ	年 1 回 程 度 ～ 3か月に1回程度		(52)	5.8	11.5	13.5	7.7	7.7	23.1	30.8	17.3	21.2	30.8	30.8
	1か月に1回程度 ～2か月に1回程度		(53)	0.0	5.7	11.3	17.0	30.2	13.2	22.6	5.7	28.3	43.4	22.6
	2週間に1回以上		(76)	1.3	1.3	1.3	15.8	11.8	15.8	52.6	2.6	17.1	27.6	52.6

テニスのプレイ形態を複数回答可でたずねたところ、全体では「個人で友人や家族とプレイ」が8割（80.1%）で最も多い。「社会人サークル・同好会などでプレイ」は約3割（30.9%）、「テニススクールでプレイ」は約2割（22.1%）であった。性別にみると「個人で友人や家族とプレイ」は女性（87.8%）の方が男性（74.8%）より高く、「社会人サークル・同好会などでプレイ」は男性（35.5%）の方が女性（24.3%）より高い。プレイ歴別ではプレイ歴が長いほど「テニススクール」の割合が多い。プレイ頻度別にみると、高頻度であるほど「社会人サークル・同好会」、「テニススクール」の割合が高くなる傾向がある。

図表 4-6：現在のプレイ形態 ※複数回答可



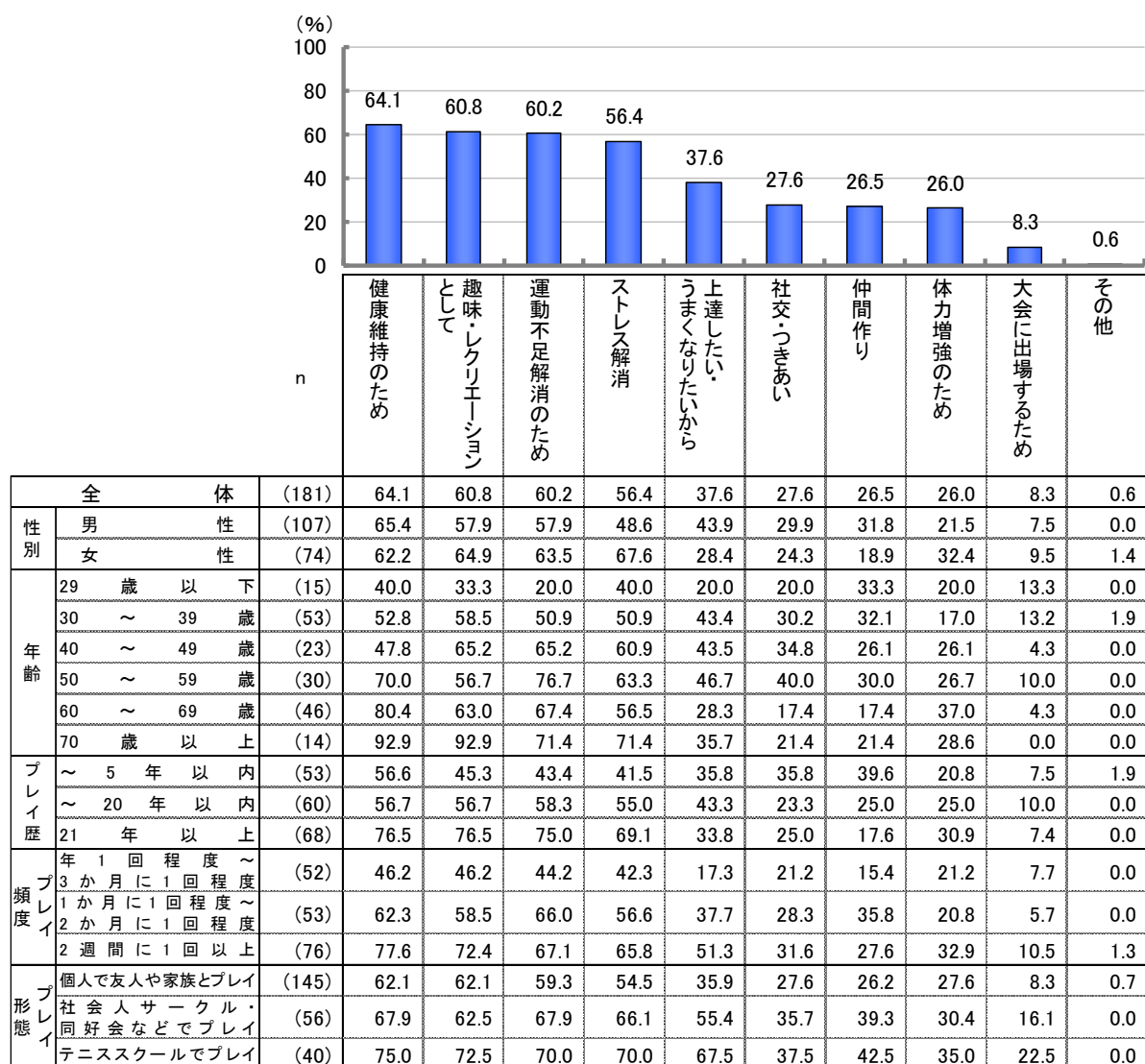
テニスをする理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「健康維持のため」(64.1%)「趣味・レクリエーションとして」(60.8%)、「運動不足解消のため」(60.2%)が6割台で上位にあり、次いで「ストレス解消」(56.4%)、「上達したい・うまくなりたいから」(37.6%)などが続いた。

性別にみると「ストレス解消」は女性(67.6%)の方が男性(48.6%)より高く、「上達したい・うまくなりたいから」は男性(43.9%)の方が女性(28.4%)より高い。

プレイ歴別ではプレイ歴が長いほど多くの項目が選ばれているが、「仲間作り」についてはプレイ歴が5年以内の層が39.6%で他に比べて高い。

プレイ形態別にみると、社会人サークル・同好会などでプレイしている場合とテニススクールでプレイしている場合は、「上達したい・うまくなりたいから」が特に高い。テニススクールの場合は、「大会に出場するため」も他に比べて高い。

図表 4-7：テニスをする理由 ※複数回答可



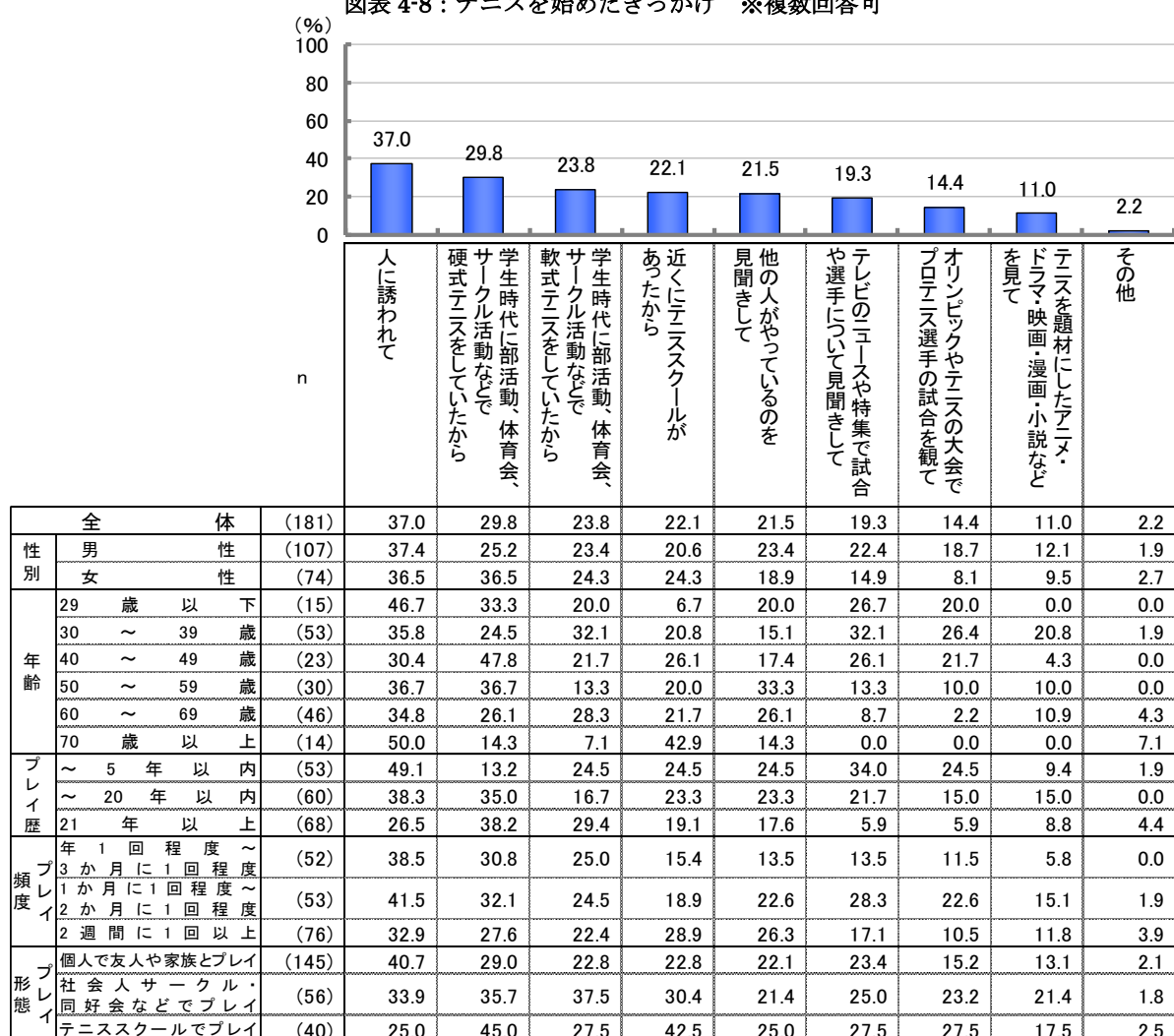
テニスを始めたきっかけを複数回答可でたずねたところ、全体では「人に誘われて」（37.0%）が約 4 割で最も多く、以下、「学生時代に硬式テニスをしていたから」（29.8%）、「学生時代に軟式テニスをしていたから」（23.8%）、「近くにテニスクールがあったから」（22.1%）が上位にあがった。

年齢別にみると、「テレビのニュースや特集で試合や選手について見聞きして」や「オリンピックやテニスの大会でプロテニス選手の試合を観て」は 40 歳代以下の層では 2 割から 3 割で 50 歳代以上と比べて高い傾向がある。

プレイ歴別では、「人に誘われて」と「テレビのニュースや特集で試合や選手について見聞きして」、「オリンピックやテニスの大会でプロテニス選手の試合を観て」はプレイ歴が浅い層ほど高くなる傾向があり、「学生時代に硬式テニスをしていたから」はプレイ歴が長い層ほど高くなる傾向がある。プレイ頻度別にみると、高頻度の層ほど「近くにテニスクールがあったから」と「他の人がやっているのを見聞きして」が高くなる傾向がある。

プレイ形態別にみると、「人に誘われて」は個人で友人や家族とプレイしている場合で高い。「学生時代に部活動などで軟式テニスをしていたから」と「テニスを題材にしたアニメ・ドラマ・映画・漫画・小説などを見て」は社会人サークル・同好会などでプレイしている場合で高い。テニスクールでプレイしている場合は、「近くにテニスクールがあったから」「学生時代に部活動などで硬式テニスをしていたから」が他に比べて高い。

図表 4-8：テニスを始めたきっかけ ※複数回答可



◆社会人のテニス観戦者の意識調査

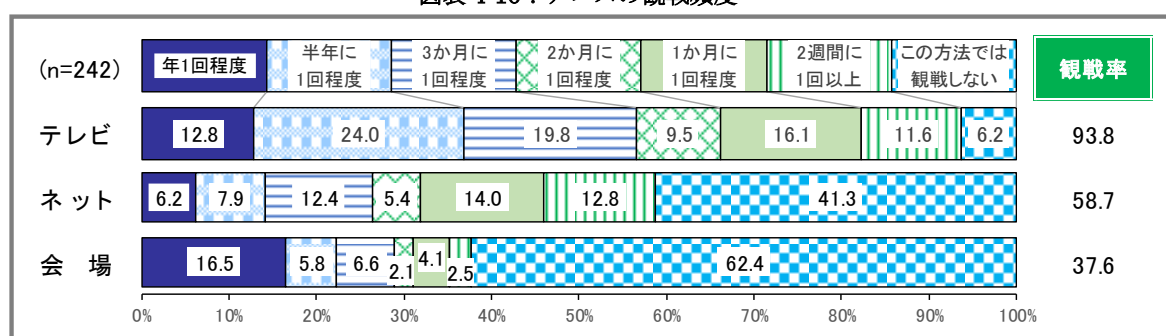
テニス観戦者を対象に観戦頻度や観戦方法、観戦理由等についてたずねた。

テニスの試合を観戦する方法とそれぞれの頻度をたずねた。ここ1年での観戦方法は、テレビで観戦は93.8%、ネットで観戦は58.7%、会場で観戦は37.6%だった。

テレビの観戦率は各年代、差はないが、ネットでの観戦率は30～39歳が87.7%で最も高い一方、60～69歳は43.1%、70～79歳は27.8%と低い。

会場での観戦は、年代別にみると若年層ほど観戦率が高くなる傾向がある。頻度としては29歳以下を除いた年代では年1回程度が最も多い。

図表 4-10：テニスの観戦頻度



【テレビでの観戦頻度】 (%) (%)

		n	年1回程度	半年に1回程度	3か月に1回程度	2か月に1回程度	1か月に1回程度	2週間に1回以上	この方法では観戦しない	観戦率
性別	全体	(242)	12.8	24.0	19.8	9.5	16.1	11.6	6.2	93.8
	男性	(138)	10.1	22.5	18.1	10.1	19.6	10.1	9.4	90.6
	女性	(104)	16.3	26.0	22.1	8.7	11.5	13.5	1.9	98.1
年齢	29歳以下	(14)	42.9	7.1	21.4	7.1	7.1	7.1	7.1	92.9
	30～39歳	(57)	12.3	15.8	15.8	5.3	19.3	22.8	8.8	91.2
	40～49歳	(26)	23.1	19.2	7.7	7.7	19.2	15.4	7.7	92.3
	50～59歳	(37)	8.1	24.3	18.9	5.4	29.7	2.7	10.8	89.2
	60～69歳	(72)	11.1	26.4	23.6	16.7	9.7	8.3	4.2	95.8
	70歳以上	(36)	2.8	41.7	27.8	8.3	11.1	8.3	0.0	100.0

【ネットでの観戦頻度】 (%) (%)

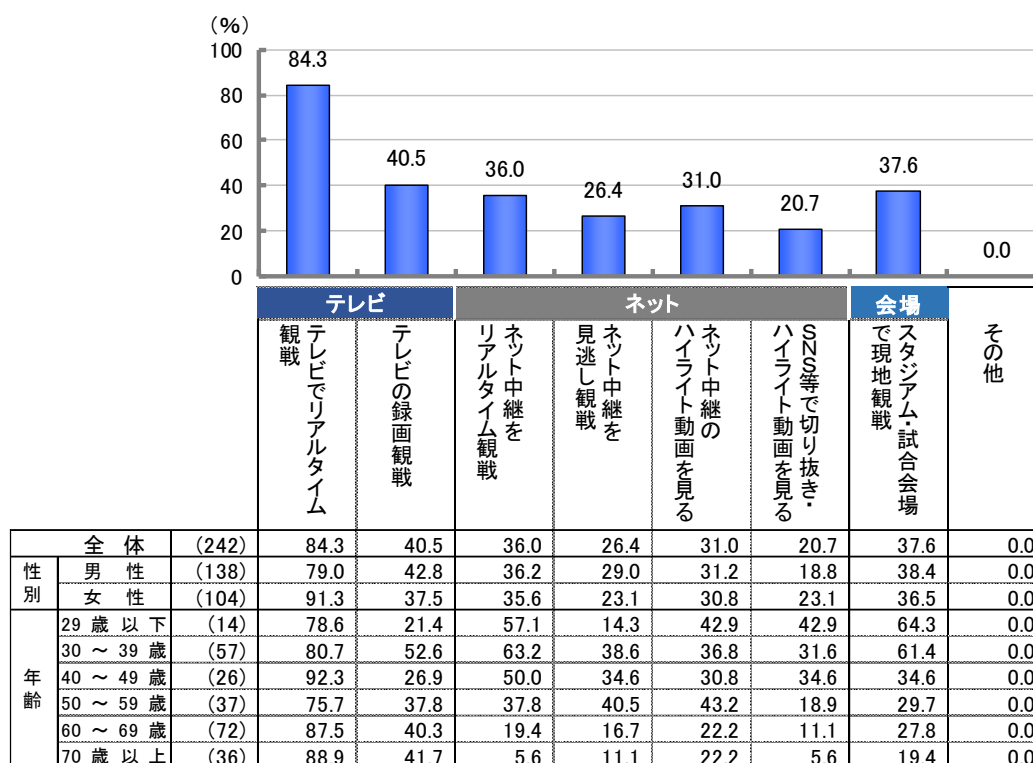
		n	年1回程度	半年に1回程度	3か月に1回程度	2か月に1回程度	1か月に1回程度	2週間に1回以上	この方法では観戦しない	観戦率
性別	全体	(242)	6.2	7.9	12.4	5.4	14.0	12.8	41.3	58.7
	男性	(138)	5.1	8.0	10.9	5.8	18.8	13.0	38.4	61.6
	女性	(104)	7.7	7.7	14.4	4.8	7.7	12.5	45.2	54.8
年齢	29歳以下	(14)	7.1	14.3	35.7	0.0	0.0	28.6	14.3	85.7
	30～39歳	(57)	12.3	10.5	19.3	5.3	21.1	19.3	12.3	87.7
	40～49歳	(26)	11.5	0.0	0.0	11.5	11.5	23.1	42.3	57.7
	50～59歳	(37)	2.7	8.1	18.9	0.0	24.3	10.8	35.1	64.9
	60～69歳	(72)	2.8	6.9	8.3	6.9	11.1	6.9	56.9	43.1
	70歳以上	(36)	2.8	8.3	2.8	5.6	5.6	2.8	72.2	27.8

【会場での観戦頻度】 (%) (%)

		n	年1回程度	半年に1回程度	3か月に1回程度	2か月に1回程度	1か月に1回程度	2週間に1回以上	この方法では観戦しない	観戦率
性別	全体	(242)	16.5	5.8	6.6	2.1	4.1	2.5	62.4	37.6
	男性	(138)	15.2	6.5	7.2	2.2	5.1	2.2	61.6	38.4
	女性	(104)	18.3	4.8	5.8	1.9	2.9	2.9	63.5	36.5
年齢	29歳以下	(14)	7.1	21.4	28.6	0.0	0.0	7.1	35.7	64.3
	30～39歳	(57)	19.3	5.3	12.3	3.5	12.3	8.8	38.6	61.4
	40～49歳	(26)	19.2	7.7	3.8	3.8	0.0	0.0	65.4	34.6
	50～59歳	(37)	10.8	8.1	5.4	5.4	0.0	0.0	70.3	29.7
	60～69歳	(72)	18.1	2.8	2.8	0.0	4.2	0.0	72.2	27.8
	70歳以上	(36)	16.7	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	80.6	19.4

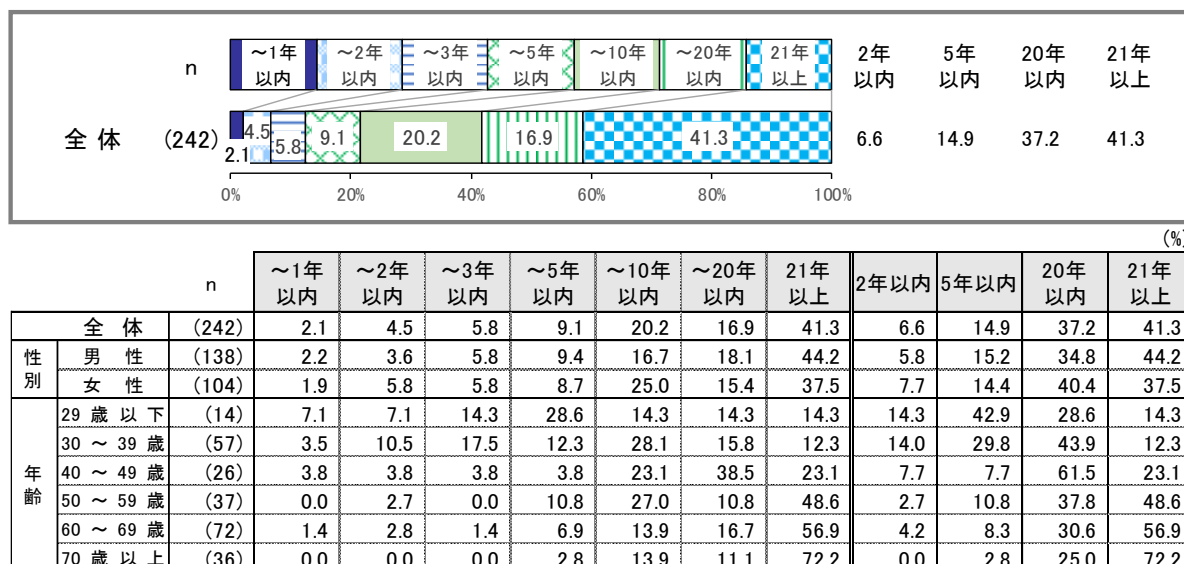
試合の観戦方法を複数回答可でたずねたところ、全体では、テレビは「リアルタイム観戦」が84.3%で最も多く、「録画観戦」は40.5%であった。ネットは、「ネット中継をリアルタイム観戦」が36.0%で最も多く、次いで「ネット中継のハイライト動画を見る」31.0%、「ネット中継を見逃し観戦」(26.4%)、「SNS等で切り抜き・ハイライト動画を見る」(20.7%)の順であった。

図表 4-11：観戦方法 ※複数回答可



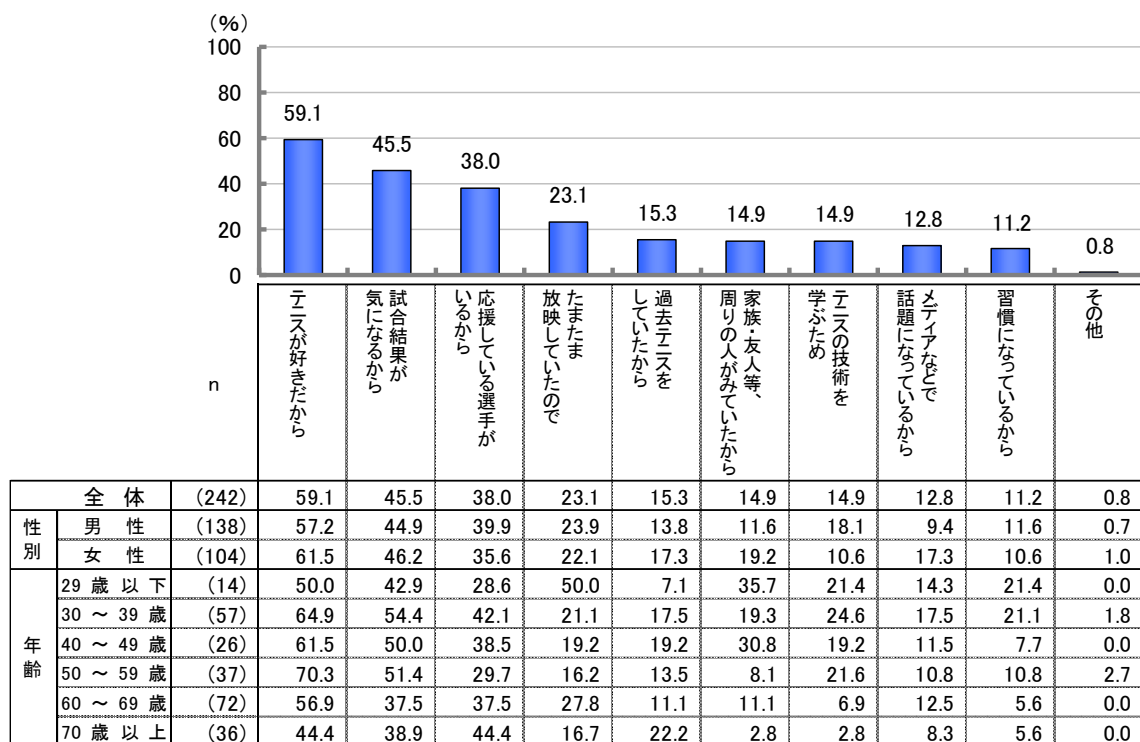
テニスの試合の観戦歴は、「21年以上」が41.3%、「～20年以内」が16.9%で、両者を合わせた『10年超』が全体の過半数（58.2%）を占める。

図表 4-12：テニスの観戦歴



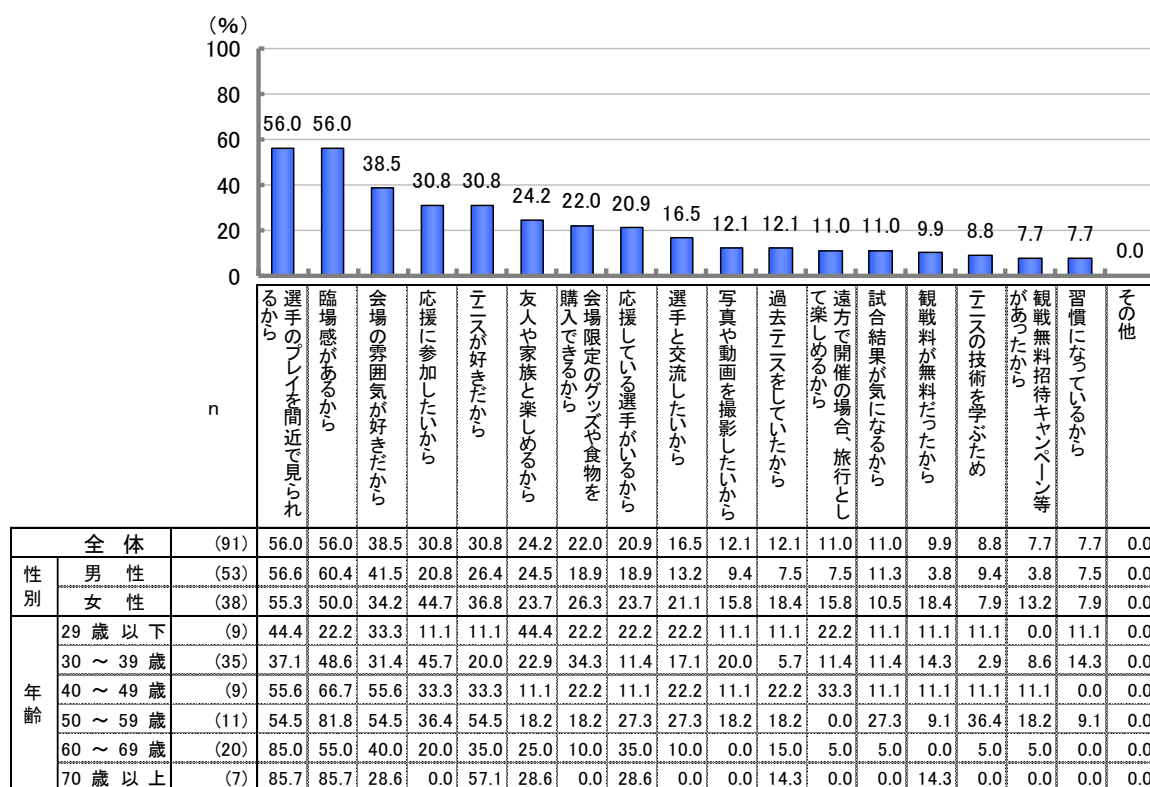
テレビやネットでテニスの試合を観戦した人に対して、観戦理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「テニスが好きだから」(59.1%)が約6割で1位にあがった。次いで、「試合結果が気になるから」(45.5%)、「応援している選手がいるから」(38.0%)が上位にあがった。

図表 4-13：観戦理由（テレビ・ネットでテニス観戦した方） ※複数回答可



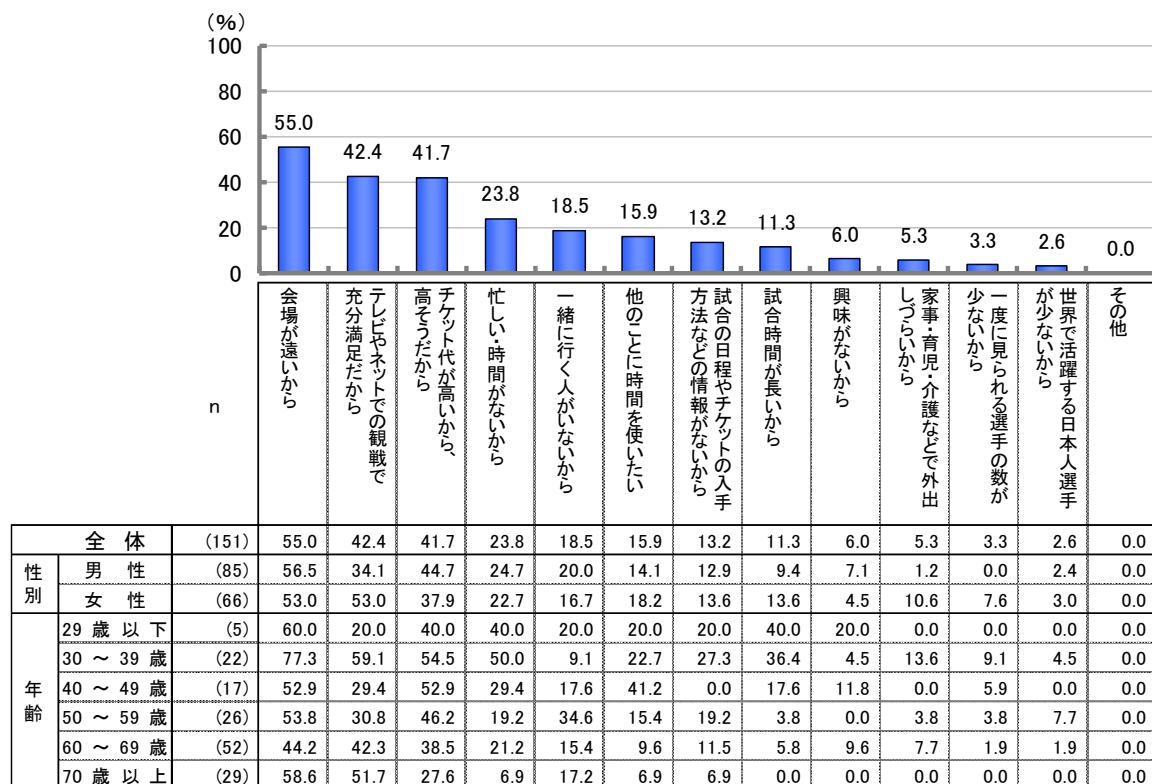
会場で観戦した人に対して、会場で観戦した理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「選手のプレイを間近で見られるから」と「臨場感があるから」（ともに 56.0%）が 1 位にあがった。次いで、「会場の雰囲気が好きだから」（38.5%）、「応援に参加したいから」（30.8%）、「テニスが好きだから」（30.8%）が 3 割台であがり、「友人や家族と楽しめるから」（24.2%）、「会場限定のグッズや食物を購入できるから」（22.0%）、「応援している選手がいるから」（20.9%）が 2 割台であがった。

図表 4-14：会場で観戦した理由(会場でテニス観戦した方のみ) ※複数回答可



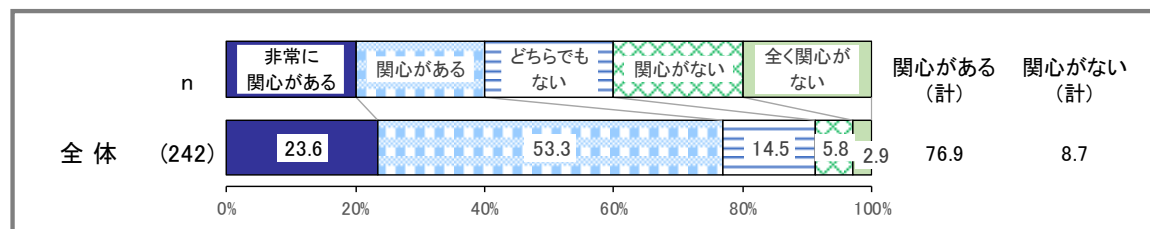
会場で観戦しない人に対して、会場で観戦しない理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「会場が遠いから」(55.0%) が最も高く、次いで「テレビやネットでの観戦で充分満足だから」(42.4%)、「チケット代が高いから、高そうだから」(41.7%) などが上位にあがった。テレビやネットによる観戦の手軽さに比べて会場への移動の手間やチケット代などが会場で観戦しない主な理由であることがわかる。

図表 4-15：会場で観戦しない理由 ※複数回答可



観戦者に対して、テニスの試合にどの程度関心があるかたずねたところ、全体では「非常に
関心がある」は 23.6%、「関心がある」は 53.3%で『関心がある（計）』が 76.9%と 8 割近くを占め
た。

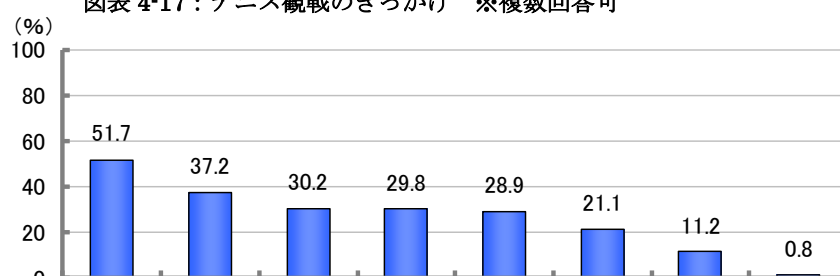
図表 4-16：テニスの試合の関心度



		n							
			非常に 関心がある	関心がある	どちらでも ない	関心がない	全く 関心がない	関心がある (計)	関心がない (計)
全 体		(242)	23.6	53.3	14.5	5.8	2.9	76.9	8.7
性 別	男 性	(138)	23.9	51.4	16.7	4.3	3.6	75.4	8.0
	女 性	(104)	23.1	55.8	11.5	7.7	1.9	78.8	9.6
年 齢	29 歳 以下	(14)	28.6	42.9	7.1	7.1	14.3	71.4	21.4
	30 ～ 39 歳	(57)	42.1	47.4	5.3	3.5	1.8	89.5	5.3
	40 ～ 49 歳	(26)	19.2	53.8	19.2	3.8	3.8	73.1	7.7
	50 ～ 59 歳	(37)	29.7	51.4	16.2	2.7	0.0	81.1	2.7
	60 ～ 69 歳	(72)	12.5	54.2	20.8	8.3	4.2	66.7	12.5
	70 歳 以上	(36)	11.1	66.7	13.9	8.3	0.0	77.8	8.3

テニスの試合を観戦するようになったきっかけを複数回答可でたずねたところ、全体では「テ
ニスに限らずスポーツ観戦が好きだから」が 5 割（51.7%）で 1 位にあがった。2 位には「自分
でもプレイしていたから」（37.2%）があがった。次いで「世間で話題になっている選手がいたか
ら」（30.2%）、「たまたまテレビで放映されているのを見たから」（29.8%）、「世間で話題になっ
ている大会や試合があったから」（28.9%）が 3 割前後で続く。

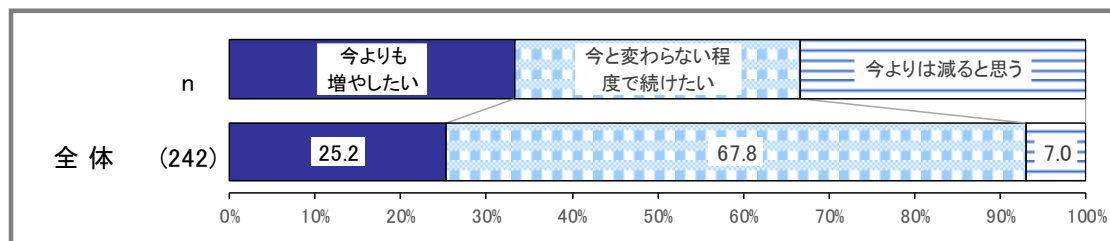
図表 4-17：テニス観戦のきっかけ ※複数回答可



		n								
			テニスに限らずスポーツ 観戦が好きだから	自分でもプレイ していたから	世間で話題になっている 選手がいたから	たまたまテレビで 放映されているの を見たから	世間で話題になっている 大会や試合があっ たから	応援したい選手 がいたから	家族や友人に誘 われて	その他
全 体		(242)	51.7	37.2	30.2	29.8	28.9	21.1	11.2	0.8
性 別	男 性	(138)	52.9	34.1	31.2	27.5	28.3	16.7	7.2	0.7
	女 性	(104)	50.0	41.3	28.8	32.7	29.8	26.9	16.3	1.0
年 齢	29 歳 以下	(14)	28.6	42.9	28.6	42.9	35.7	7.1	14.3	0.0
	30 ～ 39 歳	(57)	50.9	28.1	35.1	40.4	38.6	17.5	12.3	1.8
	40 ～ 49 歳	(26)	38.5	38.5	38.5	23.1	19.2	26.9	11.5	0.0
	50 ～ 59 歳	(37)	67.6	48.6	21.6	18.9	21.6	16.2	10.8	2.7
	60 ～ 69 歳	(72)	55.6	30.6	33.3	37.5	29.2	19.4	12.5	0.0
	70 歳 以上	(36)	47.2	50.0	19.4	8.3	25.0	36.1	5.6	0.0

テニス観戦を今後どうしたいかについては、「今と変わらない程度で続けたい」(67.8%)が全体の約7割を占め最も多く、「今よりも増やしたい」(25.2%)は全体の4分の1であった。「今よりは減ると思う」(7.0%)は1割未満と少なかった。

図表 4-18：テニス観戦、今後の意向

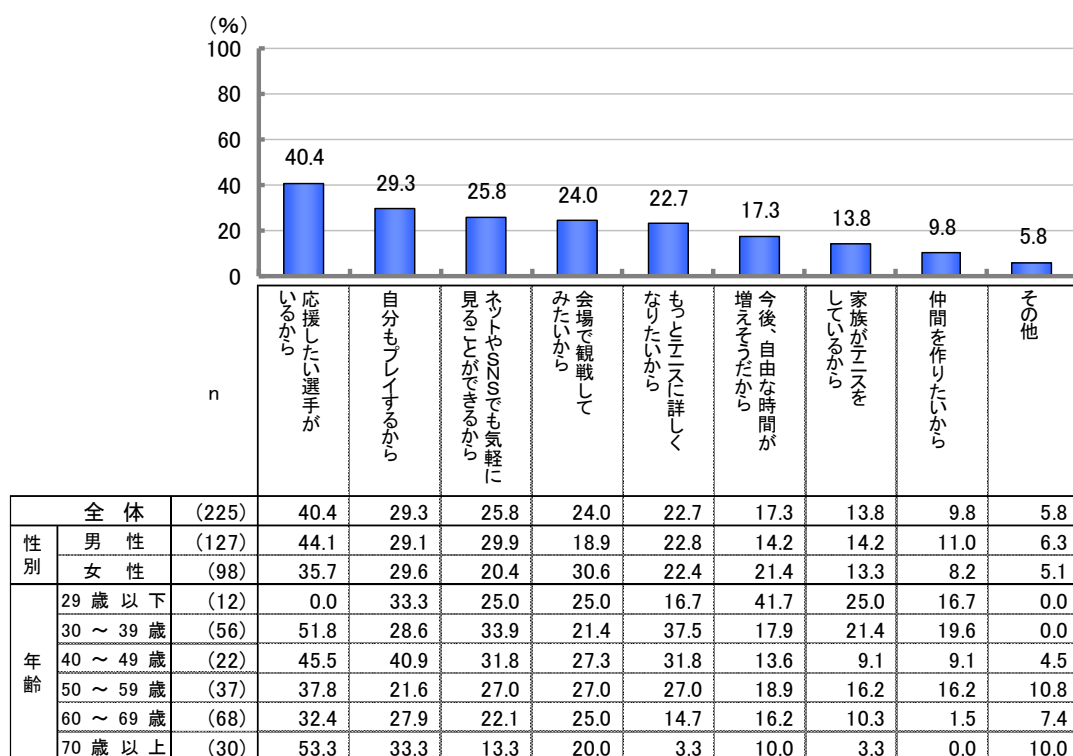


(%)

n			今よりも増やしたい	今と変わらない程度で続けたい	今よりは減ると思う
性別	全 体	(242)	25.2	67.8	7.0
	男 性	(138)	24.6	67.4	8.0
	女 性	(104)	26.0	68.3	5.8
年 齢	29 歳 以 下	(14)	35.7	50.0	14.3
	30 ～ 39 歳	(57)	47.4	50.9	1.8
	40 ～ 49 歳	(26)	26.9	57.7	15.4
	50 ～ 59 歳	(37)	29.7	70.3	0.0
	60 ～ 69 歳	(72)	15.3	79.2	5.6
	70 歳 以 上	(36)	0.0	83.3	16.7

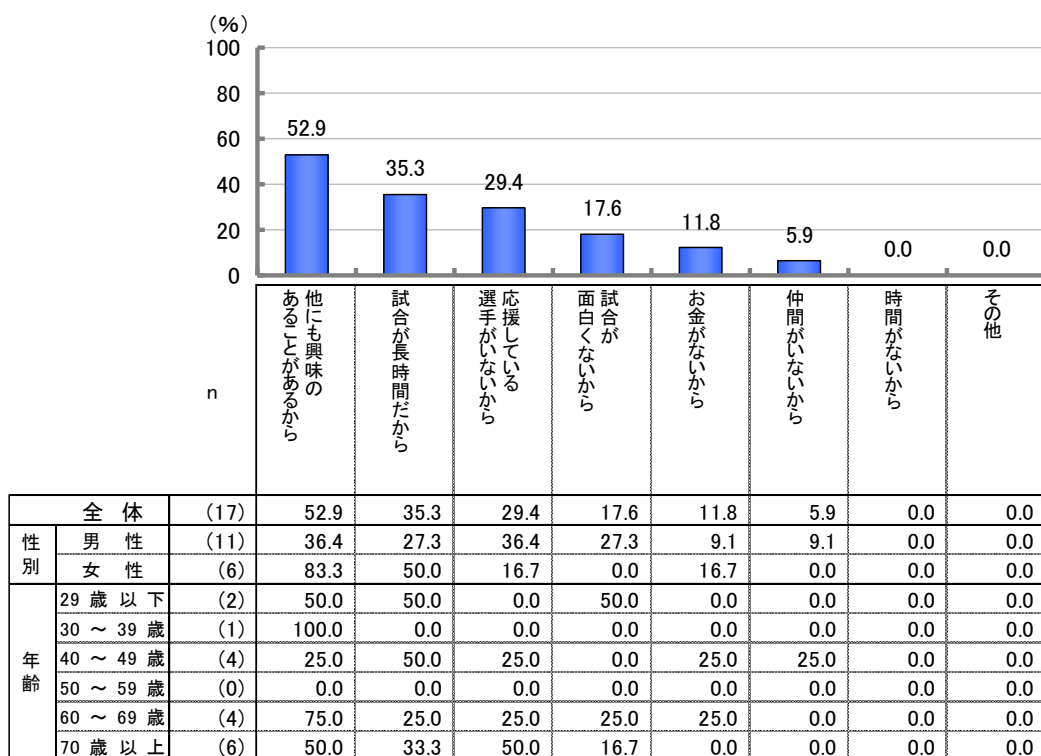
テニスの試合観戦が「今より増える」または「変わらない」と回答した人にその理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「応援したい選手がいるから」が4割（40.4%）で最も多かった。次いで「自分もプレイするから」（29.3%）、「ネットやSNSでも気軽に見ることができるから」（25.8%）、「会場で観戦してみたいから」（24.0%）、「もっとテニスに詳しくなりたいから」（22.7%）が2割台であがった。応援したい選手の存在が今後の観戦意向に最も大きな影響を与えているといえる。また、「自分もプレイするから」が約3割で2番目にあがっており、自らテニスをプレイする人は試合観戦にも積極的であることがわかった。

図表 4-19：テニス観戦、意向の理由（増える・変わらないの理由） ※複数回答可



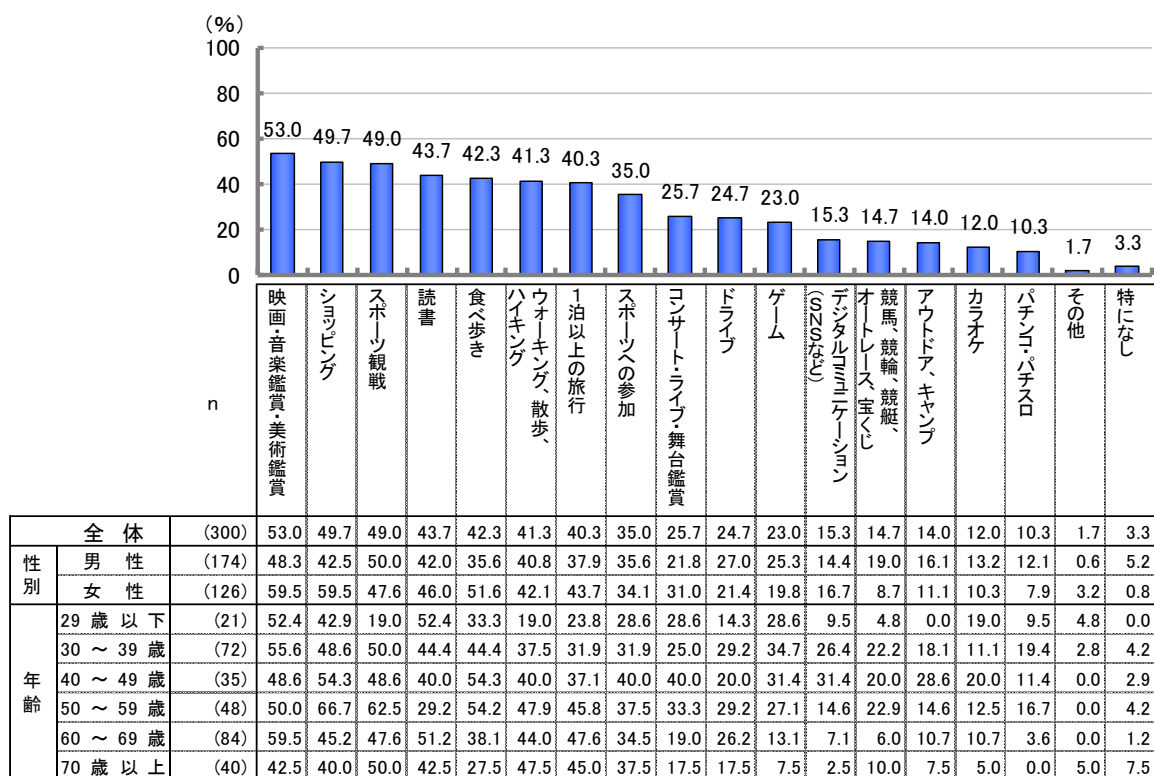
今後のテニス観戦が「減ると思う」と回答した人にその理由を複数回答可でたずねたところ、全体では「他にも興味のあることがあるから」(52.9%)が最も多く、次いで、「試合が長時間だから」(35.3%)、「応援している選手がいないから」(29.4%)が上位にあがった。

図表 4-20：テニス観戦今後意向の理由（減ると思う理由） ※複数回答可



余暇やレジャーとしてよく行うことを複数回答可でたずねたところ、全体では「映画・音楽鑑賞・美術鑑賞」(53.0%)、「ショッピング」(49.7%)、「スポーツ観戦」(49.0%)が上位にあがった。

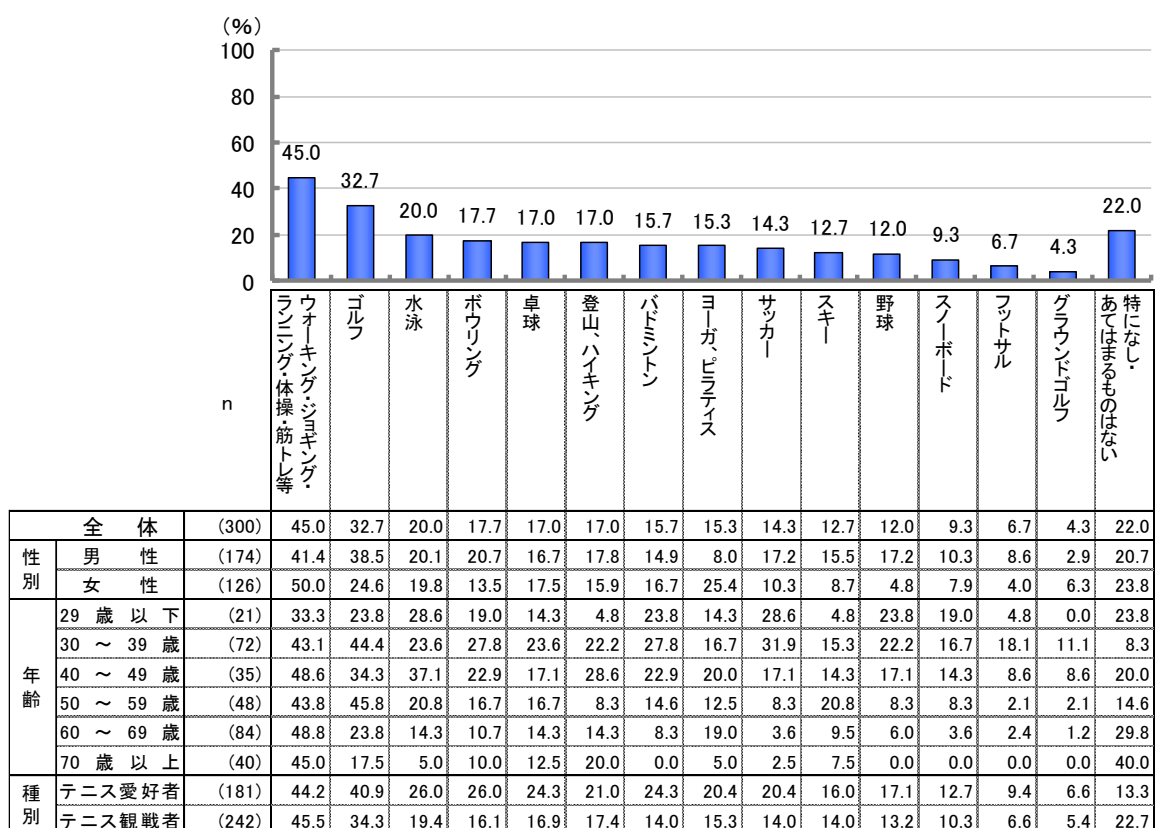
図表 4-21：趣味嗜好（全般） ※複数回答可



ここ1年間くらいに自分で行ったことがあるスポーツを複数回答可でたずねたところ、全体では1位に「ウォーキング・ジョギング・ランニング・体操・筋トレ等」(45.0%)、2位に「ゴルフ」(32.7%)があがり、3位以降には「水泳」(20.0%)、「ボウリング」(17.7%)、「卓球」「登山、ハイキング」(ともに17.0%)、「バドミントン」(15.7%)などがあがった。

テニス愛好者とテニス観戦者を比べると、「ウォーキング・ジョギング・ランニング・体操・筋トレ等」以外の全種目で愛好者が観戦者を上回っている。特に「ボウリング」「バドミントン」は愛好者と観戦者の差が約10ポイントと大きい。

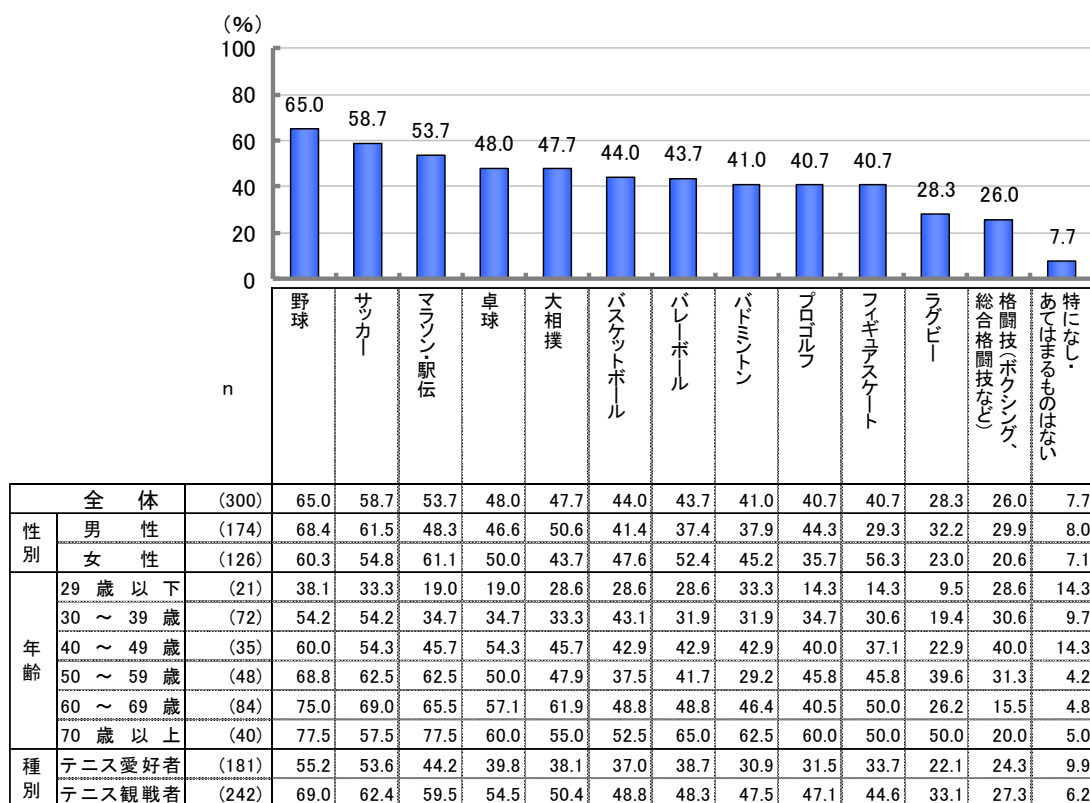
図表 4-22：趣味嗜好（スポーツ(自身で行うもの)） ※複数回答可



ここ1年間くらいにテニス以外でテレビ・ネット・会場などで観戦したことがあるスポーツを複数回答可たずねたところ、全体では、「野球」(65.0%)、「サッカー」(58.7%)、「マラソン・駅伝」(53.7%)が上位にあがり、以下、「卓球」(48.0%)、「大相撲」(47.7%)、「バスケットボール」(44.0%)などがあがった。

テニス愛好者とテニス観戦者を比べると、ほとんどの種目で観戦者が愛好者を上回る。特に「バドミントン」「プロゴルフ」「マラソン・駅伝」は観戦者が愛好者を15ポイント以上、上回っている。

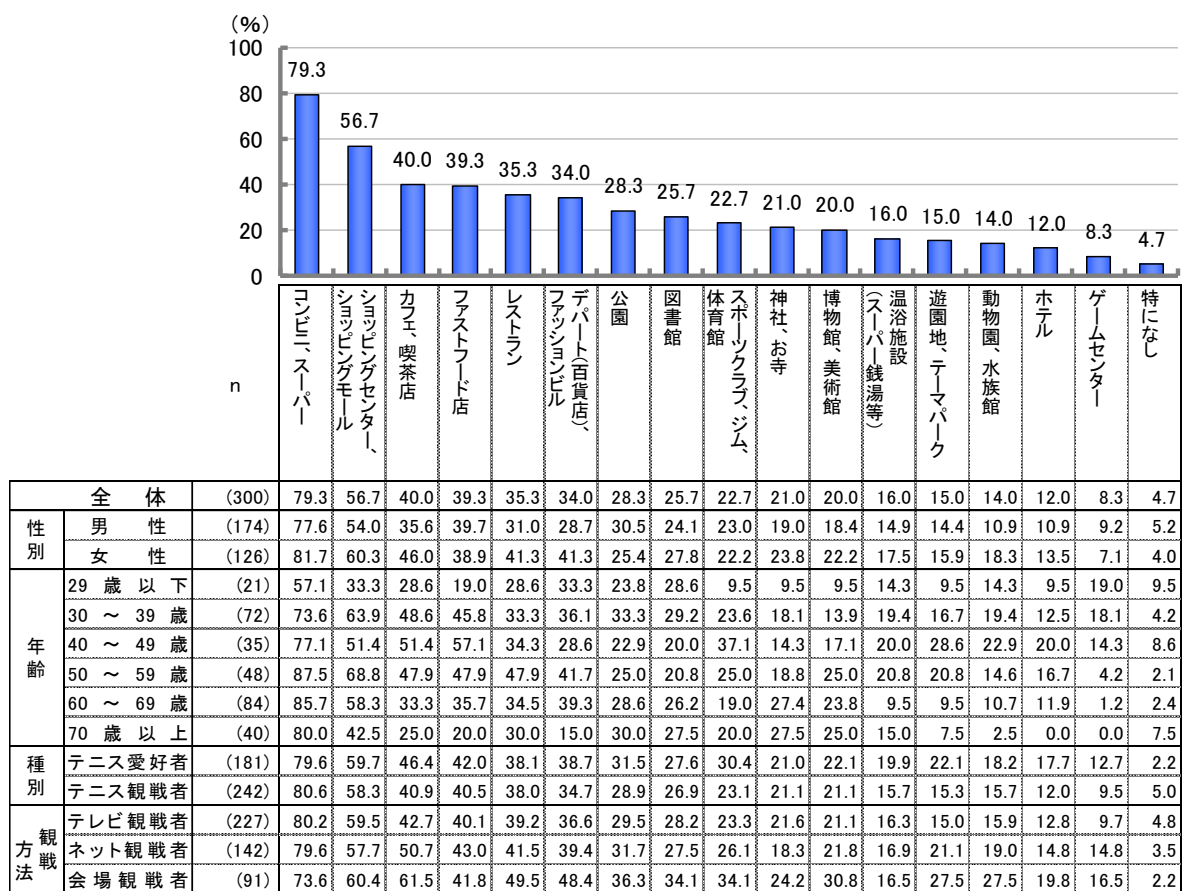
図表 4-23：趣味嗜好（スポーツ観戦） ※複数回答可



ふだんよく行く場所を複数回答可でたずねたところ、全体では、「コンビニ、スーパー」(79.3%)、「ショッピングセンター、ショッピングモール」(56.7%)、「カフェ、喫茶店」(40.0%)、「ファストフード店」(39.3%)、「レストラン」(35.3%)、「デパート(百貨店)、ファッションビル」(34.0%)などが上位にあがった。

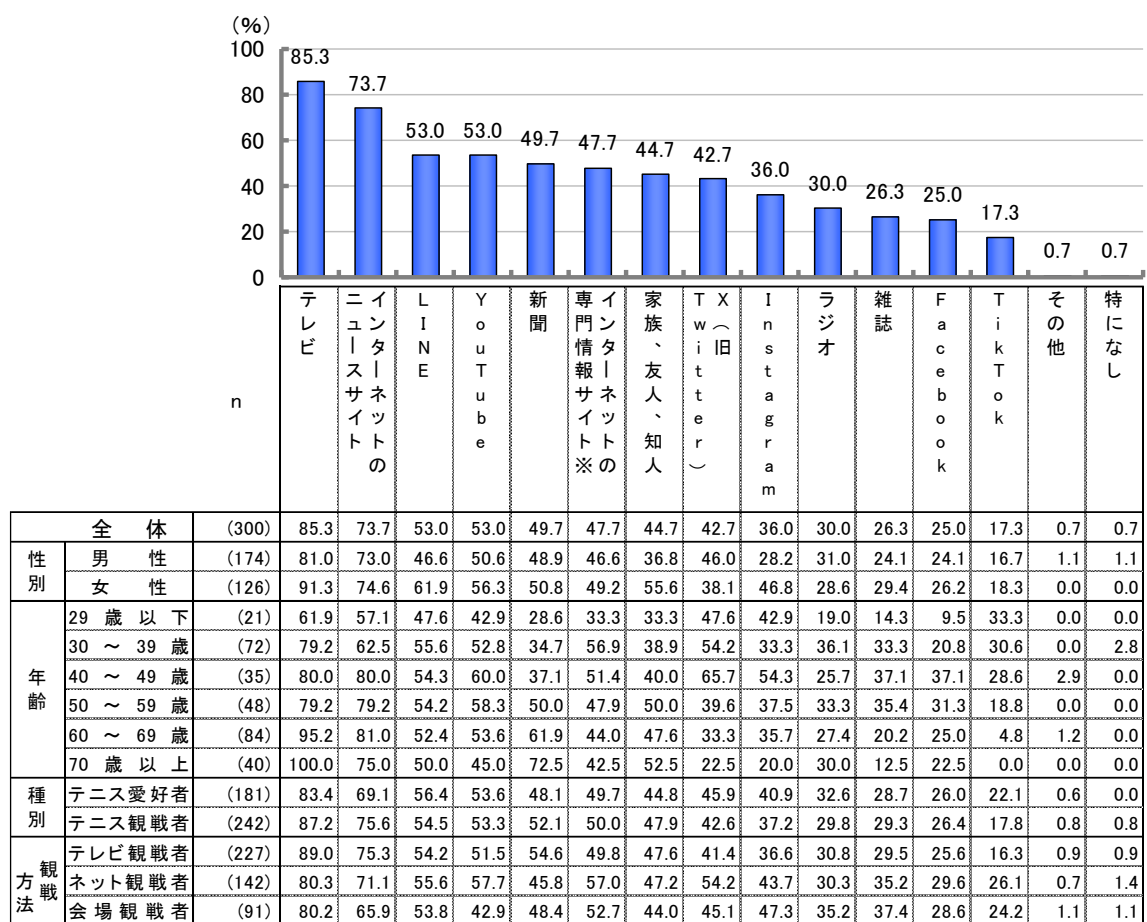
テニス愛好者とテニス観戦者で大きな差はみられないが、「スポーツクラブ、ジム、体育館」「遊園地、テーマパーク」は愛好者が観戦者を約7ポイント、上回っている。

図表 4-24：行動範囲(よく行く場所) ※複数回答可



情報源について、普段の情報源とテニスに関する情報源をそれぞれ複数回答可でたずねた。普段の情報源は、全体では、「テレビ」(85.3%)、「インターネットのニュースサイト」(73.7%)、「LINE」「YouTube」(ともに 53.0%)、「新聞」(49.7%) などが上位にあがった。テニス愛好者とテニス観戦者で大きな差は見られない。

図表 4-25：普段の情報源 ※複数回答可



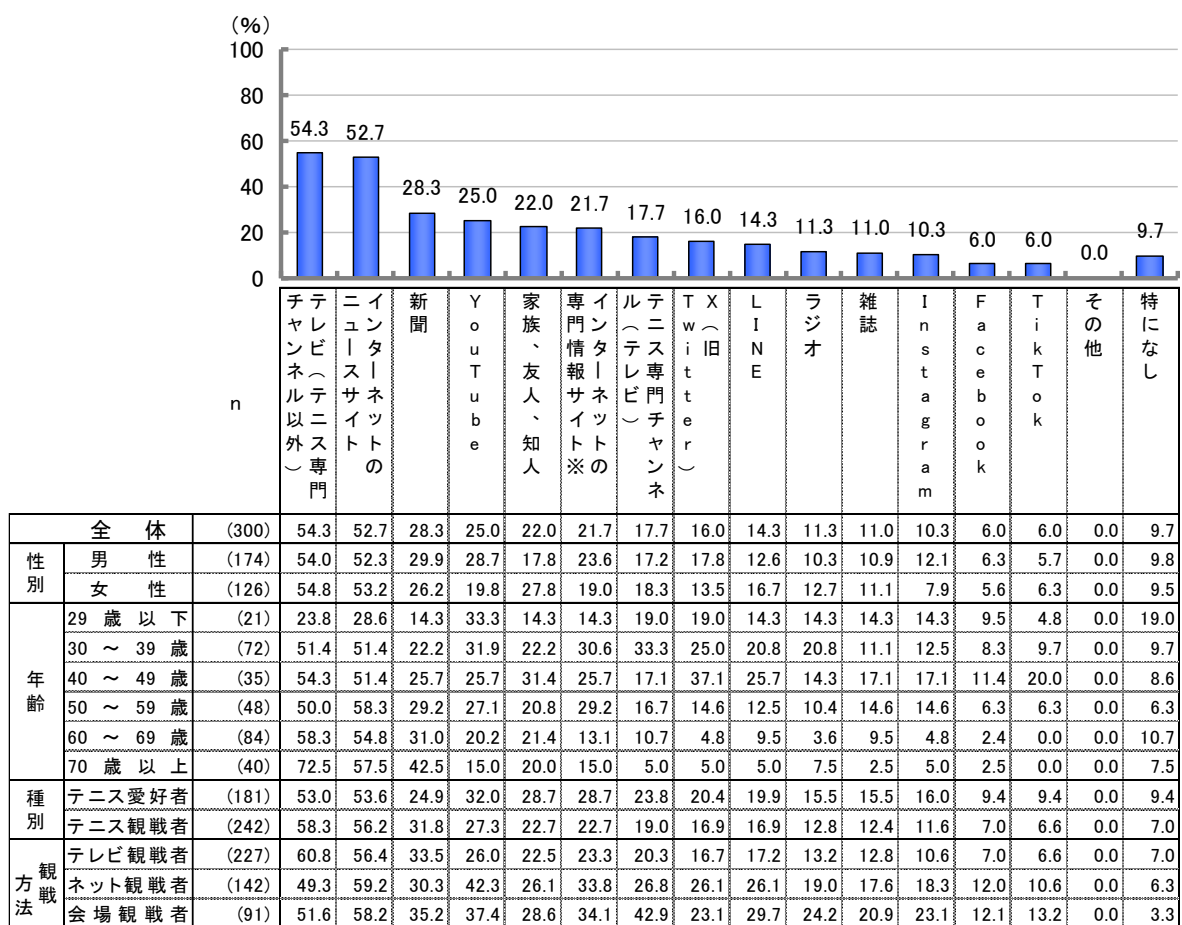
※インターネットの専門情報サイト

(例: 気象、グルメ、オンラインショッピング、ホテル予約等、各分野の情報提供サイト)

テニスの試合・テニス選手・その他テニス全般に関しての情報源は、全体では、「テレビ（テニス専門チャンネル以外）」（54.3%）と「インターネットのニュースサイト」（52.7%）の2つが50%を超えて高く、次いで「新聞」（28.3%）、「YouTube」（25.0%）、「家族・友人・知人」（22.0%）、「インターネットの専門情報サイト」（21.7%）などがあがった。「テニス専門チャンネル（テレビ）」は17.7%であった。

テニス愛好者とテニス観戦者で大きな差は見られない。

図表 4-26：テニスの試合・テニス選手・その他テニス全般に関しての情報源 ※複数回答可



※インターネットの専門情報サイト

（例：気象、グルメ、オンラインショッピング、ホテル予約等、各分野の情報提供サイト）

5. 日本テニス協会 登録選手・公認審判員・公認指導者 登録者数

これまでマクロの視点が多かったテニス人口（登録者数など）について、より現状を把握できるように、昨年度に引き続き、数年における推移やグラフでの表記を心掛けた。ジュニアについては日本テニス協会加盟団体および協力団体競技団体の協力のもと、中学、高校、大学については、部員数などミクロの視点でのデータを表記するようにした。

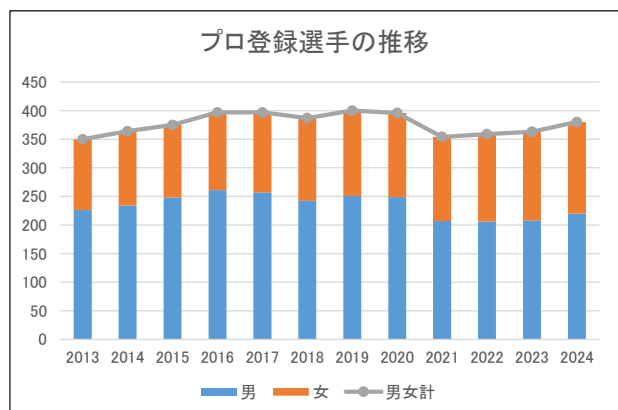
5-1 登録選手

5-1-1 プロ登録選手

「プロ登録選手」は新型コロナウイルスの影響があったものの 2013 年から 2024 年まで 350 人から 400 人で推移している

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	220	12	160	5	381	18
北海道	3	▲3	1	0	4	▲3
東北	1	▲1	1	1	2	0
北信越	2	0	3	0	5	0
関東	130	11	99	4	229	15
東海	23	1	14	0	37	1
関西	46	4	29	1	75	5
中国	4	1	5	0	9	1
四国	2	0	1	0	3	0
九州	9	0	7	0	16	0

注) 合計には海外の女子1人が含まれる

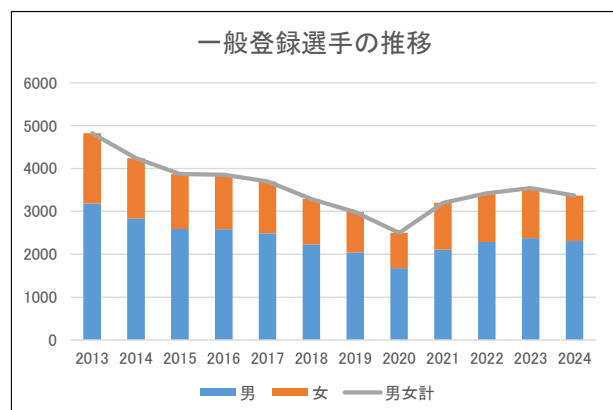


5-1-2 一般登録選手

「一般登録選手」は新型コロナウイルス発生時を底に盛り返したが、約 5,000 人いた 2013 年に比べ、2024 年は 3,370 人と、およそ 30%減少している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	2,306	▲66	1,064	▲104	3,370	▲173
北海道	52	▲1	18	6	70	5
東北	70	13	24	▲1	94	12
北信越	69	2	24	▲3	93	▲1
関東	1,202	▲39	639	▲56	1,841	▲95
東海	217	11	93	2	310	13
関西	367	▲28	136	▲37	503	▲65
中国	86	▲13	38	0	124	▲13
四国	31	▲3	14	8	45	5
九州	212	▲8	78	▲23	290	▲31

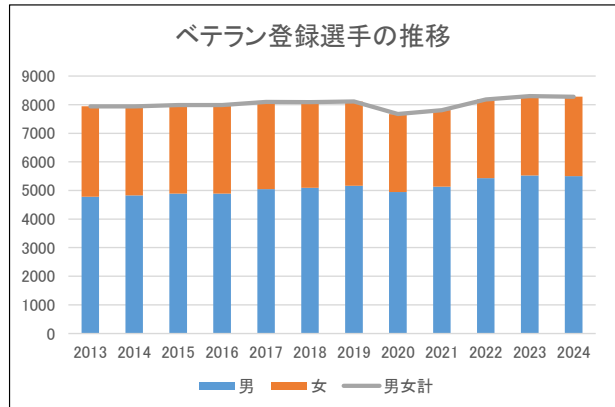
注) 2023年男子の合計に海外の3人が含まれていたため、前年比に差が含まれる



5-1-3 ベテラン登録選手

「ベテラン登録選手」は約 8,300 人で堅調に推移している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	5,501	▲27	2,776	6	8,277	▲21
北海道	149	9	137	17	286	26
東北	175	0	75	▲1	250	▲1
北信越	156	5	76	▲7	232	▲2
関東	2,915	▲18	1,514	12	4,429	▲6
東海	390	▲13	182	▲27	572	▲40
関西	985	▲15	415	▲3	1,400	▲18
中国	216	▲12	111	2	327	▲10
四国	117	3	54	2	171	5
九州	398	14	212	11	610	25

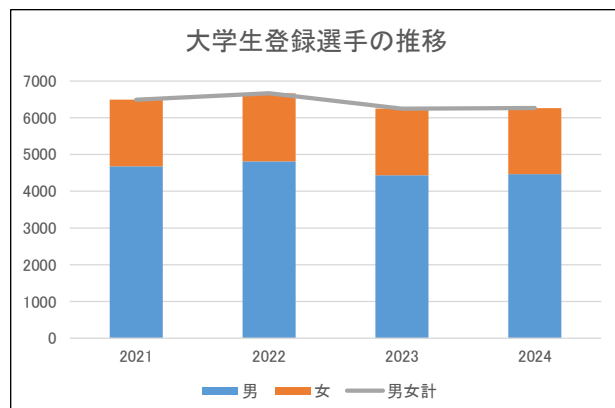


5-1-4 大学生登録選手

「大学生登録選手」の登録者数は、2021 年の約 6,500 人から微減となっている。

前年度から掲載を始めた「大学同好会」は、83 団体、約 6,700 人と前年に比べ約 10%減少した。(引用元：全日本学生テニス連盟)

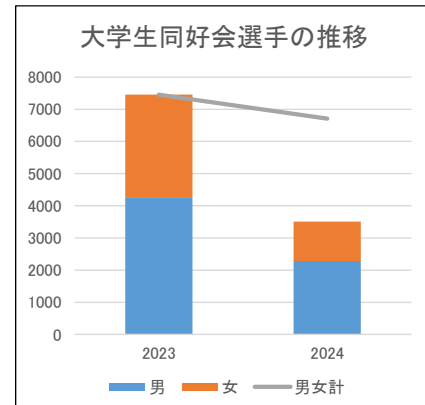
	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	4,467	33	1,795	▲17	6,262	16
北海道	263	▲27	124	▲4	387	▲31
東北	262	22	69	12	331	34
北信越	285	▲12	132	2	417	▲10
関東	1,449	44	672	▲8	2,121	36
東海	535	▲6	223	7	758	1
関西	849	33	350	▲9	1,199	24
中国	371	▲33	92	▲11	463	▲44
四国						
九州	453	12	133	▲447	586	▲435



■全日本学生庭球同好会連盟 加盟数

	サークル数		男子		女子		人数合計	
		前年比		前年比		前年比		前年比
地域合計	83	▲17	2,285	▲1,959	1,223	▲1,987	6,711	▲743
東北	3	0	67	▲3	16	0	83	▲3
関東	38	▲17	759	▲1,290	409	▲1,457	1,168	▲2,747
東海	9	0	190	▲64	131	▲45	321	▲109
関西	24	0	760	▲594	449	▲488	1,209	▲1,082
九州	9	0	509	▲8	218	3	727	▲5

注) 合計には関東選手登録者外3,203名が含まれる

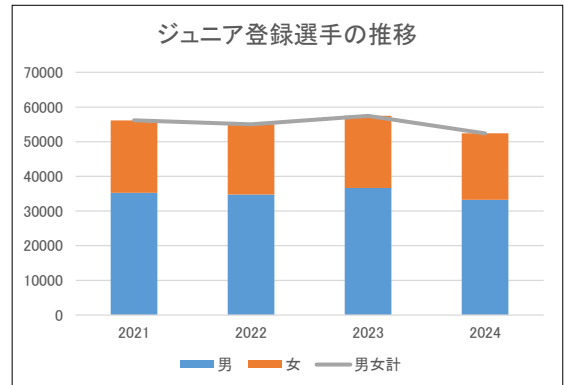


5-1-5 ジュニア登録選手

ジュニア選手の登録者数は、関東以外の地域で軒並み減少しており、全体では前年と比べて約 10%減少している。テニス人口拡大のためには、ジュニアにおける普及活動が必須となり、特にテニス体験の機会を増やす活動と仕組みが必要である。

※JPIN のデータを元に表記しているが、関東のみ、関東テニス協会ジュニア委員会の協力を得てデータを修正している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	33,268	▲3,357	19,137	▲1,705	52,405	▲5,062
北海道	1,650	▲48	1,160	▲15	2,810	▲63
東北	2,236	▲352	1,457	▲310	3,693	▲662
北信越	2,892	▲207	1,776	▲186	4,668	▲393
関東	8,098	▲25	3,792	533	11,890	508
東海	5,895	▲157	3,505	▲165	9,400	▲322
関西	6,758	▲463	3,857	▲300	10,615	▲763
中国	1,478	▲492	802	▲281	2,280	▲773
四国	1,411	▲581	965	▲426	2,376	▲1,007
九州	2,850	▲1,032	1,823	▲555	4,673	▲1,587

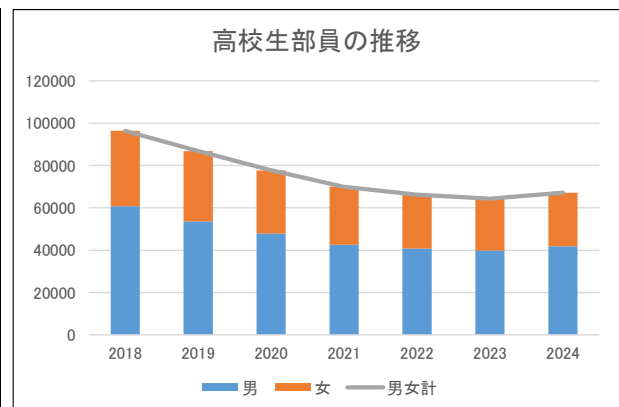


5-1-6 高校生登録選手

高校生の登録選手は、学校の部活減少の影響もあり、2018年に比べ約 10 万人から約 7 万人（30%減）と落ち込んでいる。減少傾向が続いていたが、今年度は持ち直して約 3000 人の増加となった。（引用元：全国高体連テニス専門部。登録が始まった 7 年前からのデータを表記している）

■生徒数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	41,811	1,977	25,330	804	67,141	2,781
北海道	1,218	▲14	880	▲34	2,098	▲48
東北	1,613	47	1,037	▲16	2,650	31
北信越	2,274	▲7	1,323	▲52	3,597	▲59
関東	16,096	2,226	10,090	1,380	26,186	3,606
東海	6,615	127	3,685	▲56	10,300	71
関西	6,879	▲200	4,230	▲173	11,109	▲373
中国	2,078	▲74	1,202	▲80	3,280	▲154
四国	1,043	▲81	574	▲49	1,617	▲130
九州	3,995	▲47	2,309	▲116	6,304	▲163



■学校数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	2,457	▲44	2,202	▲77	2,721	▲121
北海道	102	▲5	100	2	113	▲3
東北	136	▲4	118	▲8	149	▲12
北信越	156	▲4	131	▲6	167	▲10
関東	850	▲14	808	▲21	965	▲35
東海	307	▲5	267	▲12	333	▲17
関西	377	▲4	348	▲11	424	▲15
中国	147	0	117	▲8	157	▲8
四国	96	2	79	1	100	3
九州	286	▲10	234	▲14	313	▲24

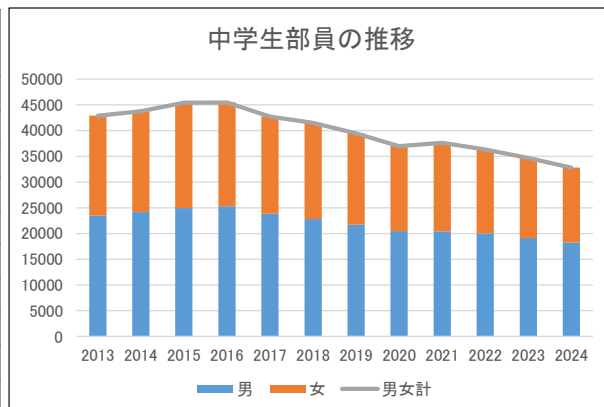
引用元：全国高体連テニス専門部

5-1-7 中学生登録選手

中学生の登録選手も 2016 年をピークに減少傾向が続いている。政府が進める「部活動の地域移行」の同行については注視していく必要があると考える。(引用元：全国中学校テニス連盟)

■生徒数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	18,236	▲876	14,576	▲980	32,812	▲1,856
北海道	33	▲47	28	▲54	61	▲101
東北	235	▲46	158	▲31	393	▲77
北信越	446	▲16	260	2	706	▲14
関東	9,060	▲485	7,738	▲527	16,798	▲1,012
東海	1,424	8	987	▲102	2,411	▲94
関西	3,895	▲27	2,972	▲125	6,867	▲152
中国	604	▲88	425	▲54	1,029	▲142
四国	356	▲42	346	23	702	▲19
九州	2,183	▲133	1,662	▲112	3,845	▲245



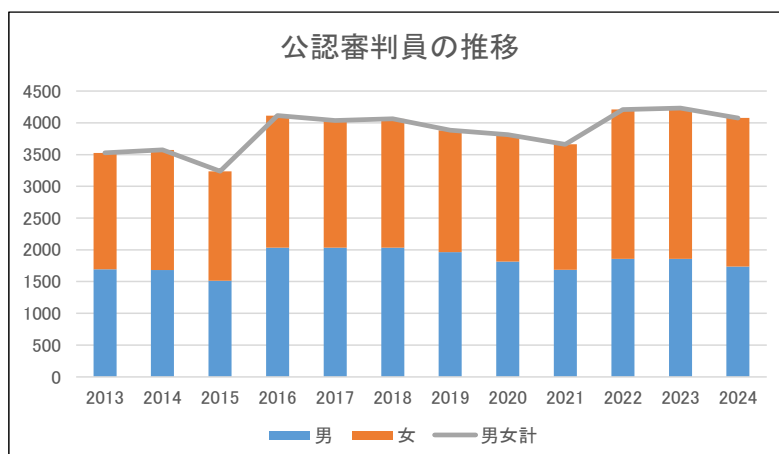
■学校数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	1,132	▲36	1,061	▲23	2,193	▲59
北海道	1	▲3	2	▲4	3	▲7
東北	21	▲10	14	▲8	35	▲18
北信越	23	0	13	▲2	36	▲2
関東	495	1	527	19	1,022	20
東海	60	0	60	▲2	120	▲2
関西	189	▲10	178	▲15	367	▲25
中国	65	▲2	54	0	119	▲2
四国	24	▲6	25	▲6	49	▲12
九州	254	▲6	188	▲5	442	▲11

5-2 公認審判員

公認審判員は、2022 年以降、4000 人台で推移している。

	レフェリー						アンパイア						チーフアンパイア					
	男子		女子		合計		男子		女子		合計		男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
地域合計	203	▲3	284	0	487	▲3	1,504	▲123	2,008	▲34	3,512	▲157	28	2	50	1	78	3
北海道	8	▲1	13	0	21	▲1	83	7	145	▲4	228	3	2	0	2	0	4	0
東北	13	0	4	0	17	0	96	▲2	124	▲20	220	▲22	2	0	0	0	2	0
北信越	19	1	14	1	33	2	117	▲39	161	10	278	▲29	4	1	5	0	9	1
関東	71	0	125	1	196	1	509	▲83	611	16	1,120	▲67	6	1	17	1	23	2
東海	19	▲1	39	3	58	2	162	7	175	▲23	337	▲16	5	0	7	0	12	0
関西	23	▲2	39	▲2	62	▲4	232	22	292	12	524	34	4	1	11	0	15	1
中国	25	1	16	0	41	1	120	5	158	7	278	12	4	0	4	0	8	0
四国	11	0	13	0	24	0	48	▲5	90	19	138	14	0	0	0	0	0	0
九州	14	▲1	21	▲3	35	▲4	137	▲35	252	▲51	389	▲86	1	▲1	4	0	5	▲1



5-3 公認指導員

公認指導員の資格は大きく分けて2つのカテゴリーがあり、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認スポーツ指導者資格と、日本テニス協会が公認する資格とに分かれている。

5-3-1 コーチ1～コーチ4、テニス教師、テニス上級教師

公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認スポーツ指導者資格。

●コーチ1

都道府県でテニスの普及発展を図るため、初心者、初級レベルの一般成人やジュニアを対象に基礎的実技指導にあたる指導者を養成する。

●コーチ2

地域や都道府県で地域スポーツクラブ・学校運動部活動・テニス教室等において、年齢、競技レベルに応じたテニス指導にあたる中心的な役割を担うとともに、企画・立案・実行能力のある指導者を養成する。

●コーチ3

競技者育成プログラムに基づき、都道府県、地域レベルでのテニス競技者の発掘・育成・強化にあたる高い指導力・高い実技能力を持った指導者を養成する。

●コーチ4

トップアスリートの育成・強化にあたるとともに、都道府県・地域トレーニングセンターのリーダーとなる人物の育成にあたる指導者を養成する。

●テニス教師

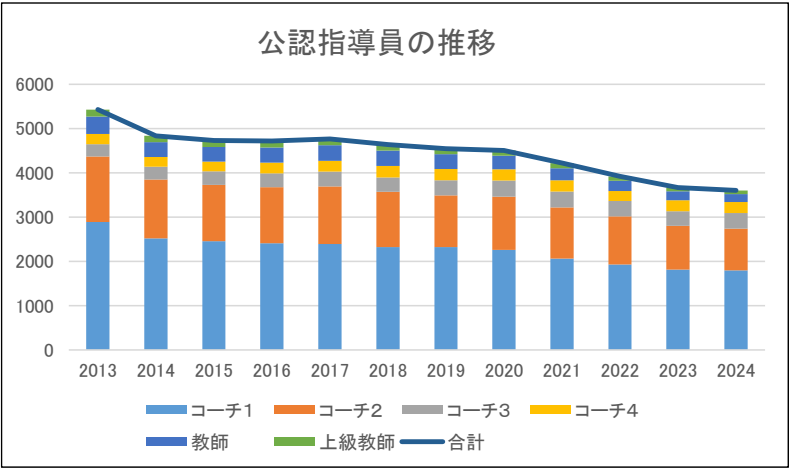
民間テニスクラブにおいて、初心者、初級、中級レベルの愛好家やジュニアを対象に、基本的実技指導にあたる指導者を養成する。またサービス業として顧客に対する対応ができ、社会的適応能力のある人材を育成する。

●テニス上級教師

民間テニスクラブにおいて、あらゆる対象に対する指導にあたりとともに、スクールの運営・管理、カリキュラム編成、イベント企画に参画できる指導者を養成する。

S級エリートコーチを除く公認指導者は合計 3,603 人。前年に比べて 64 人の微減となった。

日本スポーツ協会資格（2024年度）														
	コーチ 1		コーチ 2		コーチ 3		コーチ 4		教師		上級教師		合計	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
地域合計	1,797	▲16	946	▲42	348	13	249	3	183	▲20	80	▲2	3,603	▲64
北海道	56	9	24	0	6	0	2	0	2	▲1	0	0	90	8
東北	167	14	53	0	23	0	11	▲1	5	▲2	7	0	266	11
北信越	196	▲3	70	▲5	20	3	20	1	16	▲2	8	0	330	▲6
関東	410	▲25	266	▲17	125	5	97	0	66	▲13	36	▲1	1,000	▲51
東海	224	16	56	▲1	40	2	22	0	13	▲3	8	0	363	14
関西	323	▲14	192	▲18	61	4	44	▲1	51	0	8	▲2	679	▲31
中国	171	▲7	135	▲5	27	▲2	26	0	11	0	3	0	373	▲14
四国	68	▲1	48	0	20	2	8	0	4	0	2	1	150	2
九州	182	▲5	102	4	26	▲1	19	4	15	1	8	0	352	3
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

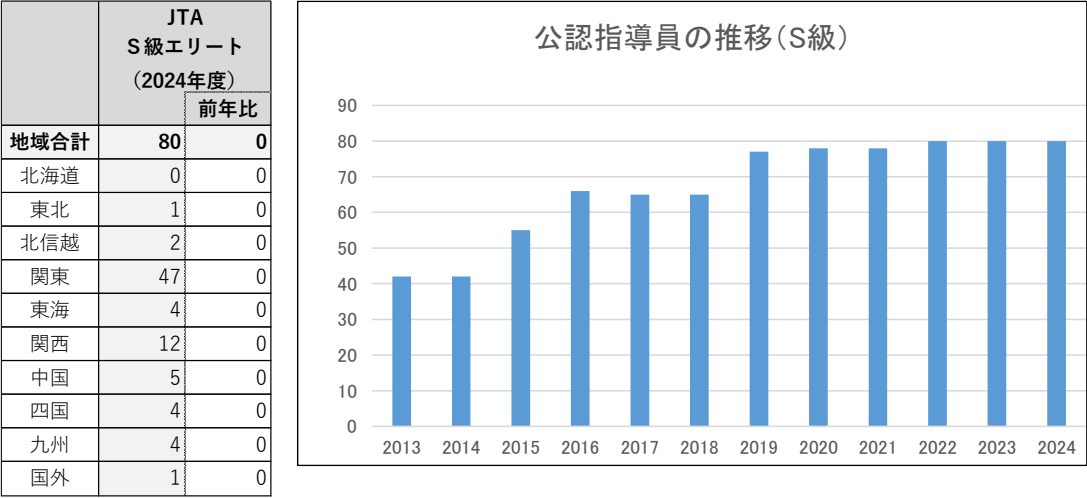


5-3-2 S 級コーチ

S 級エリートコーチ制度は、テニスのトレーニング、コーチング、マネジメントの各分野において最新の科学的理論と実践知識に基づき、世界基準の指導力を有する指導者を育成することを目的としている。

S 級エリートコーチは合計 80 人。前年に比べて変動はない。

注) S 級エリートコーチの合計には、海外の 1 人が含まれる



注) S 級エリートコーチの合計には、海外の 1 人が含まれる



令和 6 年度 テニス環境等実態調査 報告書

令和 7 年（2025 年）3 月

発行者 公益財団法人日本テニス協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2 Japan Sport Olympic Square 7 階

電話：03-6812-9271

E-mail：mail@jta-tennis.or.jp

URL：<http://www.jta-tennis.or.jp/>

編集 株式会社日本リサーチセンター

			レッド		オレンジ		グリーン		イエロー	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
北海道		県市町村協会								
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
東北										
北信越	新潟県	県市町村協会			1	11	4	155	3	120
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	長野県	県市町村協会			1	8				
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間					3	49		
	富山県	県市町村協会	2	38	2	39	2	46	1	
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)					1	16	1	56
		民間	1		1					
	石川県	県市町村協会	2	20	2	40				
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	福井県	県市町村協会	1		1		3		2	
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
関東	東京都	県市町村協会					2		3	353
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	神奈川県	県市町村協会	2	40			2	30	11	237
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間					2	31		
	埼玉県	県市町村協会					10		7	
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)					2		2	
		民間			2		8		85	
	千葉県	県市町村協会			3	45	7	196	6	147
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	群馬県	県市町村協会	1				1			
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間	12				24			
	栃木県	県市町村協会								
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	茨城県	県市町村協会					2	20	3	30
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間					1	24		
	山梨県	県市町村協会								
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間	30	200	10	80	30	200		

			レッド		オレンジ		グリーン		イエロー	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
東海	静岡県	県市町村協会	14		4	80	6	18		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間	12							
	岐阜県	県市町村協会	4	40	4	60	10	300		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)					1			
		民間	12		6		24		24	
	愛知県	県市町村協会			1	16			1	53
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間	4	60	21	315	31	465		
	三重県	県市町村協会					4	330		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
関西	滋賀県	県市町村協会					3		2	172
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	京都府	県市町村協会					1	80		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間					3	60		
	大阪府	県市町村協会	9	177			11	773		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	兵庫県	県市町村協会	2	24	2	48	2	90		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	和歌山県	県市町村協会					5	70		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間			16	76	16	107		
	奈良県	県市町村協会					20	400	10	150
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
中国	岡山県	県市町村協会					1	40	2	100
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間	4	30	4	40	4	4	6	120
	広島県	県市町村協会			2		3			
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	山口県	県市町村協会								
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	鳥取県	県市町村協会			2	20	2	20	3	73
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	島根県	県市町村協会	4	26	4	24	4	53	4	130
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								

2024年度カラーボール大会・都道府県別開催大会数

別紙

			レッド		オレンジ		グリーン		イエロー	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
四国	香川県	県市町村協会			1	20	1	34		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	徳島県	県市町村協会								
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	愛媛県	県市町村協会	4	40			4	64	4	280
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間	3	30	3	30			3	240
	高知県	県市町村協会								
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
九州	福岡県	県市町村協会	2	2	6		2	10	48	5380
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)							6	410
		民間	2	46	2	46	10	106	32	5284
	熊本県	県市町村協会								
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	大分県	県市町村協会	2	16	4	50	8	235	12	840
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	長崎県	県市町村協会			1	40	3	100		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	佐賀県	県市町村協会					3	40	3	230
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)	1	13					1	12
		民間								
	鹿児島県	県市町村協会					8	200		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間								
	宮崎県	県市町村協会					4	40		
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間	7	30			7	140	7	350
	沖縄県	県市町村協会					6	158	5	461
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)								
		民間					2	7		
		県・市町村スポーツ少年団			1	28	2	54	2	112
合計			137	832	107	1116	315	4765	299	15340

※2025年4月1日集計時点の数値を掲載しています。

※大会数は都道府県テニス協会が集計把握している分を掲載しております。